昭和５５年度

# 文化財調査報告書

第１１集

前橋市教育委員会

# 目　次

はじめに……教育長　金井博之
一、旧元総社村役場関係資料調査報告……1
1　旧元総社村役場関係資料……1
2　旧元総社村役場関係資料目録……10
二、妙安寺総合調査報告（四）……29
一谷山記録　一
三、昭和五十五年度埋蔵文化財発掘調査概報……37
1　芳賀東部団地遺跡
2　西大室遺跡群
3　富田遺跡群
4　清里南部遺跡群
5　鶴谷遺跡群
6　中島遺跡群
四、文化財調査関係写真……44
旧元総社村役場関係資料
昭和五十五年度埋蔵文化財発掘調査

# はじめに

昭和五十一年春から始まった「芳賀東部工業団地」の発掘調査も、昭和五十五年度をもって一応の結着をみました。五年間にわたる調査の結果得られた成果は多大なものであります。これら資料については、できるだけ早く整理し、改めて公表していきたいと考えております。それにしても、昭和五十五年度も文化財保護行政の大半の力を埋蔵文化財の発掘調査に注いでまいりました。土地改良・運動場の造成と現代社会にマッチした土地再開発事業に伴う調査が主でありました。変動著しい現代の情勢の中で、文化財保護の行くべき道をさぐりながらの動きでしたが、年度内に予定の調査が完了しましたのも、関係の方々の御協力の結果と感謝しております。

そんな中で、本年度も文化財調査委員の方々をわずらわし、例年のとおり文化財調査を実施しました。また、当教育委員会で所有しております資料を有効に活用していただくべく、スライドの編集も手がけてまいりました。これらは、地味な活動ではありますが、文化財保護行政の本来的な姿の一端でもあります。

この調査報告書には、五十五年度の活動の概要を上載いたしました。本報告書の刊行も十一集を数えるにいたり、小冊子にすぎないものですが、資料的にも価値あるものとして今後とも内容の充実をはかっていきたい所存です。

昭和五十六年三月二十五日

前橋市教育委員会
教育長　金井博之

# 例　言

1　本報告書は、旧元総社村役場関係資料調査、妙安寺総合調査、昭和五十五年度埋蔵文化財発掘調査についての報告である。

2　旧元総社村役場関係資料については、昭和五十五年度事業の一つとして、前橋市文化財調査委員である山田武麿氏、中沢右吾氏、丸山知良氏、松島栄治氏に調査していただいたものである。

3　妙安寺総合調査は、昭和五十二年度に前橋市文化財調査委員の方々に調査していただいたもので、昭和五十二年度文化財調査報告書（第8集）から引き続き掲載しているものである。

4　埋蔵文化財発掘調査については、昭和五十五年度に前橋市教育委員会で実施した六遺跡について、その概略を記したものである。

5　古文書は、原則として、旧漢字は新漢字に直した。また、平出は二字あけ、欠字は一字あけとし、読みやすくするため読点を付した。

# 一、旧元総社村役場関係資料調査報告書

旧元総社役場関係資料は、〝旧役場資料〟というものの、元総社村についての江戸時代後半の地方文書を始めとして、明治・大正・昭和の一貫した資料を並べることができる。この中には、近世・近代の当地域の施政状態や人々の生活等の資料はもちろんの事、周辺地域さらに前橋市の様相を推定する上で、貴重な資料も含まれている。

しかしながらこの資料については、現在まで本格的調査がなされていないばかりでなく、一六会（会長都木節章氏）によって保存され散逸・消失の難を逃れ現在に至っているという状態であった。このため前橋市では、この資料を管理者である一六会及び県史編さん室等多くの人々の協力を得、文化財調査委員による調査を左記のとおり実施した。

調査期日　昭和五十五年十月二十八・二十九日

調査の対象　旧元総社村役場関係資料

調査者　前橋市文化財調査委員

山田武麿

中沢右吾

丸山知良

松島栄治

調査の方法　一六会の所有・管理による資料のうち、江戸時代の冊子文書、及び明治・大正時代の資料すべてに、整理番号をつけ、カードを採り、目録を作った。これは九七二点を計上し、そのうちの一部について写真撮影を行い記録化を図った。さらに番号を表記してダンボール箱二十一個に収納した。

ただし、江戸時代の一紙文書昭和時代の資料については未整理・未調査で、大分類のみ行い別箱に収納した。

## 1　旧元総社役場関係資料

### (1)　天保七年八月　申歳小前取極請印帳

「（表紙）天保七年
申歳小前取極請印帳
八月廿二日　元惣社村東組
重右衛門」

一当夏中ゟ是迄雨天相続田畑共ニ違作ニ付、雑穀直段格別引上ゖニ付、此度世間さわかしく相成ゖニ付、当村ニも伊藤其外隣村新穀屋、当八月廿二日夜打潰ゖ抔て張札等有之ゖ間、右一件江携申間敷ゖ、尤心付あや敷風聞人声等致当村ハ不及申、隣村其外ニ而も聞付次第、名主元江早々可申聞、若万々一右等之儀有之ゖ節ハ、見物ニ而も一切出申間敷、尤不世柄ニゖ得ハ、此末共心付可申ゖ、右之通被仰聞、一同承知奉畏ゖ、然上ハ村御役人中請御差図可申ゖ、依之左ニ御請連印仕申ゖ、仍如件

天保七申年
八月

三左衛門㊞
栄次郎㊞
武　七㊞
仁右衛門㊞
藤　蔵㊞
惣左衛門㊞
丑五郎㊞
銀右衛門㊞

兵右衛門㊞
勝之亟㊞
良　七㊞
源五郎㊞
元　良㊞
権右衛門㊞
太兵衛㊞
惣兵衛㊞
門右衛門㊞

（整理番号　I―一の七）

## (2) 天保十亥年六月　村方喰物商停止請印帳

「（表紙）
天保十亥年
村方喰物商停止請印帳
六月廿日
元惣社村西組
名主　捨兵衛」

覚

一、干菓子之外売へからすゟ
一、菓物類売へからす
一、豆腐・蒟蒻・致煮焼ゟ物売へからすゟ事
一、魚鳥之類致煮灸ゟ物売へからすゟ事
一、都而致煮焼売へからすゟ

右ヶ條之通喰物売申間敷ゟ旨、前々ゟ被　仰聞有之ゟ処、近年相弛ゟニ付、此度右喰物商之義者、皆不相成旨被仰付、承知奉畏ゟ、然処毎年三月朔日・二日同月十五日前後共ニ三日
七月十一日
九月九日・十日前後共ニ四日
十二月廿六日一日
右四度之儀者ヶ條之内ニ而も商ひいたし、其餘リ者決シ而不相成之趣、被　仰聞、承知仕ゟ、然ル上ハ村三人衆為締、不時ニ御見廻ヒ成、諸事御改之上、若心得違之者有之煮焼之品売ゟハヽ、品物御取あげ、其者商ひ一切可相止旨仰被　仰渡、是又承知奉畏ゟ、依之左ニ御請連印仕ゟ処、仍而如件

天保十亥年
六月廿日

柳　蔵㊞
長兵衛㊞
伊右衛門㊞
定　吉㊞
太右衛門㊞
富　蔵㊞
代五郎㊞
和五郎㊞
長　吉㊞
皆吉後家㊞
長　七㊞
孝　蔵㊞
喜之助

（整理番号　I―七の10）

## (3) 弘化四年八月　祭礼ニ対小前取極メ印形帳

（表紙）
「弘化四未年
祭礼ニ対小前取極メ印形帳
元惣社村
両組」

八月七日

一当村惣社大明神神事祭礼之儀、去ル亥年中操替三月九日・十日祭礼執行仕ゐ処、春ハ諸事不勝手ニ付、猶又当年ゟ九月九日・十日祭礼定例とし而、中古之通操替直し仕度、御他領入会之町々迄一同相談仕、私共惣代とし而御願申上ゐ上ハ、以後操替等之儀御願申上間敷ゐ間、何卒此節中古之通ニ御願申上ゐ、依之佐之通印形仕差上申ゐ処、仍而如件

阿弥陀寺町宿　清　蔵㊞
同　嘉四郎㊞
世話人　栄次郎㊞
惣代
同　藤太郎㊞
殿小路町　宿　安壱郎㊞
同　藤兵衛㊞
世話人　喜　蔵㊞
同　力五郎㊞
上ノ下町　宿　与兵衛㊞
世話人　吉兵衛㊞
上町　宿　馬五郎㊞
同　新之助㊞
世話人　勘　蔵㊞
同　丈　七㊞
中町　宿　団　七㊞
同　扇　助㊞
下ノ下町　宿　浅　吉㊞
世話人　庄兵衛㊞
新田町　宿　留五郎㊞
世話人　孝　蔵㊞
同　文　吉㊞
粟嶋町　宿　谷　吉㊞
世話人　清三郎㊞
同　太三郎㊞
金井町　宿　安兵衛㊞
同　里次郎㊞
世話人　倉　八㊞
同　源　蔵㊞
馬場町　宿　長兵衛㊞
世話人　孫四郎㊞
同　亀　吉㊞
前内出　宿　七之助㊞
世話人　利　吉㊞
同　美和吉㊞
世話人　仙　蔵㊞
同　相之助㊞

両組
御役人衆中

（連名は二段にした）

（整理番号　I―一の16）

## (4) 文久三年二月　御改革小前江申渡連印帳

（表紙）
「文久三癸亥年
御改革小前江申渡連印帳
二月十八日
元惣社村西組
名主　儀作」

覚

一殿様
一御官名

右京亮様与被遊御改ゐ、右之通リ被　仰出御条、村中大小之百姓、寺社門前ニ、水呑ニ至迄不洩様為申聞、尤宿処之寺社へも此旨可申通者也、

亥二月

一衣類御定之外着須べから須、飲喰家作都而費ヶ間鋪儀致間敷、以右前々相触置ゐ処、近来其風儀ヲ失ひ、常々美麗之衣類を相用、就中婚礼之砌ハ、手重之結納ヲ取遣ハしいたし、又ハ大勢ヲまねき過分之振舞を致、無量ニ入用相掛ゐ者、面々之不為者いふに不及、身元薄き者共ハ容易ニ祝儀致兼ゐ様相成可申、殊更両三年以来、繭糸利潤有之由ゟ弥以奢ニ長しゐ而已ならす、当座之利潤ニ而其日を致軽営ゐ賤鋪町商人共抔之風俗ヲ学ひゐ類有之哉相聞、農民者国之本たる由縁を負ひゐ

様、形行ゟ而者以之外之事共ニ而ゟ、右体ニ而者自然若者共、よからぬ道ニ携弥柔弱ニ流し、終ニ者持前農業を怠り、先祖持来ル田畑茂人手ニ渡し、無余儀餘業ニ移、あるひは其所住居茂成兼ゟ様、成行誠ニ以歎ケ敷事ニ而ゟ、猶又博突者御制禁ニ而前々厳重被仰出も有之処、中ニ者種々名目を付賭事致ゟ咎をも被仰付ゟ族、間々有之畢竟、其親族之者共平常教方之精視ニ聞可申、当今時勢之御模様も有之不容易御時節、百姓ハ弥々古代之風儀忘却不致、何事茂質素ニ致、振舞等之節、新類組合之外大勢を招かす、倹約専ニいたし、怠慢之風ニ不流、農事相励ゟ儀肝要ニ而ゟ条、村役人共其身之行を正し、他之そしりを不請様心掛、小前を教喩ニして農事を励し、役威を以非分無之様親敷申合、聊以心得違無之様可致ゟ、且又米穀を初、日用之薪炭迄格外高直ニ売出し、其外右ニ付諸品駄賃等迄、過分之給分を取ゟよし、是又当前之利徳ニ走リ、本業之農事を忘ゟ、基可相成如何之事ニゟ、たたし諸株問屋共たり共実道ニ売出し高利を貪ゟ儀無之様可心掛ゟ

一近来御領分村方ゟ、猥ニ御城下町江借家罷在致商ゟ族も有之哉ニ相聞不埒之事ニゟ、無拠子細有之有之願済之上ハ、格別以来無沙汰右体之儀無之様、急度可相守ゟ

右之趣村中大小之百姓・寺社門前・水呑ニ至迄、村役人方江呼出し、銘々親敷為申聞、請書印形取置、其旨村役人共書面を以、来ル廿日迄支配御代官迄可差出ゟ

右ニ付而者廻方之者折々差出し、若違背之輩於有之者、当人者不及申、品ニ寄其外之者迄、急度可及沙汰ゟ条、精々之行届ゟ様可致もの也

亥二月

別紙相奉ゟ、尤此廻状披見之上、村名下江令受請、早々順達留リゟ会所江可相達ゟ

高崎

亥二月朔日　役所

此度

御上洛ニ付在中火之元者勿論、諸事取締向入念ニ可申ゟ

一在中村役人并辻番人共御相済ゟ迄、昼夜無怠相廻リ可申ゟ

一在中并寺院共他之者堅ク逗留為致間敷ゟ

一在中并寺院惣而人寄等一切仕間敷

一在中并寺院普請等無用可致ゟ

一在中者他所江不罷、若無拠儀有之節者村役人江相届ケ他出可致ゟ

右之通村中大小之百姓・寺社門前・水呑ニ至迄、不洩様為申聞、尤寄寄之寺社江も此旨可申通者也

亥

二月十三日　高崎　役所

市五郎㊞　九左衛門㊞
森右衛門　惣左衛門㊞
徳次郎㊞　米　吉㊞
造酒之助㊞　輪太七㊞
牧　太㊞　伝左衛門
縫之助㊞　伊左衛門㊞
三右衛門㊞　忠　助㊞
林　蔵㊞　文次郎㊞
勘　七㊞　密　蔵㊞
八右衛門㊞　宮　吉㊞
長左衛門㊞　八十次郎㊞
草左衛門　久兵衛㊞
七右衛門㊞　佐次兵衛㊞

連　蔵㊞　　七五郎㊞
藤兵衛㊞　　鶴　松㊞
藤七㊞　　甚左衛門
勘蔵㊞　　民　蔵㊞
亀蔵㊞　　弥之八㊞
辰右衛門㊞　　平　蔵㊞
米八㊞　　辰之助㊞

前書之名前相違無御座ゟ以上

文久癸亥年　元惣社村西組
二月廿日　百姓代　太重郎㊞
同　文　吉㊞
組頭　清　吉㊞
同　源右衛門㊞
同　粂右衛門㊞
名主　又右衛門㊞
同　儀　作㊞

（整理番号　I―一の26）

（連名は二段にした）

## (5) 文久三年六月　作日雇并請取師事取極帳

（表紙）「文久三癸亥年
作日雇并請取師事取極帳
六月　元惣社村西組
名主　儀作」

一当村方作日雇請取師事、近年猥リ＝相成ゟ＝付、此度相成ゟ＝付、此度相改申ゟ、然ル上者小前一同取極議定連印左之通

一百八拾文　春□（ムシ）壱反＝付
一弐百七拾文　五月株ねき壱反＝付
一八百文　荒人□植壱反＝付
一八百文　他田□□□壱反＝付
一五百文　田之草壱（ママ）反＝付壱ばんご
一四百文　田草壱反＝付□度目
一三百文　同三度目
一五百文　□取□斗□代取極
一三百文　早乙女（壱石）
一三百文　大麦こなし
一四百文　壱石小麦こなし
一壱貫弐百文　畑休地うない壱反＝付
一八百文　秋田うない壱反＝付
一金壱分＝付　蚕日雇上女＝而八日定メ
一同壱分＝付　麦こき九日定メ
一同壱分＝付　稲こき九日
一同壱分＝付　とうぢゟ八十八ヤ迄十日
一同壱分＝付　八十八ヤゟ二百十日迄六日
一同壱分＝付　二百十日ゟとうぢ迄七日

市五郎
森右衛門
徳次郎
造酒之助
牧　太
縫之助

鶴　松
甚左衛門
民　蔵
弥之八
草　蔵

（整理番号　Ⅰ—七の27）

〃

## (6)　明治十二年八月　群馬県衛生報告第二回

群馬県衛生報告第二回　　明治十二年八月十三日

虎列拉病予防ノタメ東群馬郡前橋曲輪町ニ於テ、有志者醵金ヲ以衛生会所ヲ設置センコトヲ請願ニ由リ許可ス、依テ其趣旨規則等ヲ左ニ上梓シ此旨報告ス

前橋衛生会所設立趣旨

夫レ虎列良ノ病タルヤ其伝染ノ迅速ニシテ且劇烈ナル未タ之レニ過グル者アラサルナリ、而メ病毒冥々ノ中ニ潜伏シ予防ノ方法モ亦易々タラストス、然レトモ近属大ヒニ予防ノ術ヲ講シ之レヲ理論ニ照シ、実際ニ徹スルモ確然トシテ効功ヲ奏セザル事アルナシ、官夙トニ予防法ヲ設ケ、又タ各々実行セラル、事素ヨリ欠典アル事ナシト雖モ、人民亦相互ニ適宜ノ方法ヲ設ケ予防保護ノ道ヲ竭サヽル可ラス矧ンヤ、貧民ニ至テハ予防ノ資ニ乏シク、防クヘキ者ヲ防カスシテ一朝此病ニ斃ル誠ニ傷マシカラスヤ、而メ其不幸此ニ止マラス之ヲ四隣ニ伝ヘ、竟ニ四方ニ蔓延スルニ至ル毀鑑遠カラス、既ニ大阪及ヒ兵庫ノ如キ日々斃ルミ者百余人、其他山口ニ長崎ニ鹿児島等ニ蔓延シ、東京及其近傍ノ地ニ於テ既ニ三四ノ患者ヲ見ルニ至レリ、本県ニ於テモ類似ノ症三名ニ及ヘリ、今ニシテ防遏拒絶スルニアラズンバ、幾多ノ生霊ヲ亡スニ至ルヤ亦未タ知ルヘカラス、豈ニ有志ノ徒袖手傍観スルノ時ナラヤ、玆ニ吾曹衛生会所ヲ設立シ、予法諭告及ヒ施薬等ノ件ヲ施行シ、仮リニ左ノ規則ヲ設ケ広ク有志諸君ノ醵金ヲ請ヒ、以テ与ニ仁域壽境ニ踏ヲン事ヲ望ム、冀クハ其多キヲ借マズ少ナキニ愧チス出金アラン事ヲ

前橋衛生会所仮規則

一　虎列良病予防法及其施薬等ヲ施行スル為メ曲輪町四番地ニ仮会所ヲ設立スル事

一　此社ノ擔任スル件左ノ如ク

貧民ニ予防薬等ヲ施与スル事

貧困ニシテ十分ニ牖掃ノ行届カサル者ハ其報告ニ由テ速ニ牖掃人足ヲ派出セシムル事

各人民ニ漏レナク平易ナル文ヲ以テ虎列良病ノ心得等ヲ論告スル事

一　右等ノ資金ニ供スル為メ広ク江湖慈仁ノ士ヲリ醵金ヲ受クヘキ事

一　予防法ニ通暁セル者二人ヲ挙ケテ本社事務委員トナス事

一　醵金高並ニ支出高ハ明瞭ニ調査スル為メ会計委員ヲ置キ新聞紙ヲ以テ損助金ノ姓名金額ヲ報告セシムル事

（整理番号　Ⅱ—九の4）

## (7)　明治十七年十月　道敷潰地免租願

道敷潰地免租願

西群馬郡　内藤分村

字村南七百六拾三番

元畑五畝拾七歩

此地価拾壱円八拾七銭七厘

此地租弐拾九銭七厘

一道敷反別壱畝拾四歩　木暮市五郎
此収穫麦壱斗九升七合五勺
此地価三円拾五銭　但シ六等地壱反歩ニ付麦壱石三斗五升
此地租七銭八厘
字村南七百六拾五番
元畑壱反五畝歩
此地価弐拾八円四拾五銭八厘
此地租七拾壱銭壱厘
一道敷反別拾六歩　大山伊勢松
此収穫麦六升四合
此地価壱円壱銭弐厘　但シ七等地壱反歩ニ付麦壱石弐斗
此地租弐銭五厘
字村南七百六拾番
元畑四畝拾六歩
此地価八円六拾銭壱厘
此地租弐拾壱銭五厘
一道敷弐拾四歩　小峯　徳弥
此収穫麦九升六合
此地価壱円五拾壱銭八厘　但シ七等地壱反歩ニ付麦壱石弐斗
此地租三銭八厘
合反別弐反五畝三歩
此地価四拾八円九拾三銭九厘
此地租壱円弐拾弐銭三厘
外反別弐畝弐拾四歩　御免租可相願分
内
畑反別弐畝弐拾四歩
此地価五円六拾六銭
此地租四銭壱厘

右者明治御十六年七月中利根川洪水之際欠落ニ付、道路敷地ニ奉願ニ処、本年二月五日付ヲ以御聞届ケ相成、十一月中ヨリ工事着手仕候間御成規之通地租御免除地成下度此段奉願ニ也

明治十七年十月八日

当村願人　木暮市五郎㊞
大山伊勢松㊞
小峯　徳弥㊞

群馬県令　佐藤與三殿

「前書之通相違無御座ニ付奥書調印仕ニ也　戸長代理
用掛　松田重衛㊞」

「書面願之趣聞届候条本年五月ヨリ免租之義ト可相心得事

県令代理
明治十七年十月十五日　群馬県大書記官　森醇㊞」

（整理番号　Ⅱ―七の11）

## (8) 明治十八年二月　鉄道敷地潰地御免租願

（表紙）
「鉄道敷地潰地御免租願

西群馬郡内藤分村」

鉄道敷其地潰地御免租願

西群馬郡内藤分村

六百廿三番
字横橋四ホ
元田反別壱畝六歩
其地価九円拾七銭弐厘
其地租金弐拾弐銭九厘
一反別弐拾畝弐歩　持主　近藤嘉十郎
其価五円六拾銭五厘
其地租金拾四銭

六百九四番
字横橋四ホ
元田反別弐畝拾四歩
其地価拾八円八拾五銭四厘
其地租金四拾七銭壱厘
一反別壱畝廿三歩　持主　都木　嘉六
其地価拾三円五拾銭四厘
其地租金三拾三銭八厘

六百六十九番
字宿西五歩
元田反別壱畝廿二歩
其地価七拾四円五拾八銭三厘
其地租金壱円八十六銭五厘
一反別七畝拾七歩　持主　大谷米次郎
其地価五拾弐円五拾七銭九厘
其地租金壱円三拾壱銭四厘

六百七拾番
字宿西
元田反別六畝弐拾壱歩
其地価四拾八円八拾七銭三厘
其地租金壱円廿二銭弐厘
一反別四畝五歩　持主　近藤　儀平
其地価三拾円三拾九銭四厘
其地租金七拾六銭

六百七拾一番
字宿西
元畑反別壱畝廿三歩
其地価三円三拾五銭弐厘
其地租金八銭四厘
一反別弐畝壱歩　持主　大谷米次郎
其地価壱円三十弐銭八厘
其地租金三銭三厘

六百七拾二番
字宿西
元田反別壱畝弐拾歩
其地価拾円九十七銭九厘
其地租金廿七銭四厘
一反別七歩　持主　近藤清五郎
其地価壱円五拾三銭七厘
其地租金三銭八厘
（六百六十五番
字宿西近藤　儀平分・字六百六十六番
宿西大谷米次郎分略す）

六百六十八番
字宿西
元田反別弐畝拾歩
其地価拾六円弐拾壱銭四厘
其地租金四拾銭五厘
一反別壱畝拾三歩　持主　斎藤弥十郎

其地価九円拾六銭
其地租金弐拾四銭九厘
（六百六十七番 字宿 西近藤嘉十郎分・六百五拾三番 字横橋 近藤儀平分略す）

六百五拾弐番 字横橋 四ホ乙
元田反別四畝拾三歩
其地価三拾弐円三拾三銭五厘
其地租金八拾銭八厘
一反別三畝四歩　持主　林倉寺
其地価弐拾弐円八拾五銭四厘
其地租金五拾七銭壱厘
（六百五拾番 字横橋 林倉寺分略す）

六百五十一番 字横橋 四ホ乙
元田反別四歩
其地価九拾七銭三厘
其地租金弐銭四厘
一反別四歩　持主　温井市郎治
其地価九拾七銭三厘
其地租金弐銭四厘
（三百三十四番 字宅地 温井市郎治分略す）

六百五十五番 字宿 西三ホ
元田反別壱反壱畝拾六歩
其地価九拾三円三拾五銭壱厘
其地租金弐円三拾三銭五厘
十反別拾三歩　持主　鎌田　亀吉

其地価三円六拾壱銭四厘
其地租金九銭
（三百三十五番 字宅地・三百三十三番 字宅地・三百三十九番 字宅地 林倉寺分三ヶ所 百二拾六番 字築地下・九拾弐番 字築地下 近藤嘉十郎分二ヶ所略す）

八拾九番 字築地下 二ホ乙
元田反別壱反壱畝拾歩
其地価九拾八円四拾四銭壱ノ
其地租金弐円四拾六銭壱厘
一反別弐畝拾五歩　持主　金井仙治郎
其地価弐拾壱円七拾壱銭五厘
其地租五拾四銭三厘
（六百廿弐番 字横橋 近藤嘉十郎分略す）

右寄
元田反別壱町弐反三畝六歩
其地価九百六拾四円九拾四銭九厘
其地租金弐拾四円拾弐銭弐厘
一反別四反九畝拾三歩
其地価三百六拾六円廿六銭四厘
其地租金九円拾五銭七厘
元畑反別壱反八畝拾弐歩
此地価四拾六円七拾五銭
此地租金壱円拾六銭九厘
一反別壱畝歩
此地価弐円拾三銭壱厘
此地租金五銭三厘

右者高崎前橋間鉄道御設置ニ付、本村地内跨線路ニ係ル地所明治十七年三月御買上ニ相成ハヽニ付、成規之通ニ地租御免被成下度、此段一同連印ヲ以テ奉願上為也

西群馬郡内藤分村
地主願人

近藤嘉十郎㊞
都木　嘉六㊞
大谷米太郎㊞
近藤　儀平㊞
近藤清五郎㊞
斎藤弥十郎㊞
林　倉　寺㊞
温井市郎治㊞
鎌田　亀吉㊞
金井仙次郎㊞

明治十八年二月二日

群馬縣令　佐藤與三殿

「前書之通相違無之ニ付奥書調印仕ハヽ也

右村聯合戸長
猪俣格㊞」

明治十八年二月二日

「書面願之趣聞届候條十七年五月ヨリ免租之儀ト可相心得事

群馬縣令　佐藤與三㊞」

明治十八年三月廿六日

（整理番号　Ⅱ―七の14）



| 整理番号 | 文書番号 | 標題 | 年次 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 227 | 御触書小前請印帳 | 文政七年正月九日 | 倹約について |
| 2 | 187 | 石川主水正様御触書写 | 文政七年三月 | |
| 3 | 188 | 御触書写 | 文政十一年六月 | 倹約令 |
| 4 | 220 | 百姓代見立小前入札面付帳 | 天保六年二月二十九日 | |
| 5 | 231 | 村方取極小前連印帳 | 天保七年三月 | 芝居一件 |
| 6 | 226 | 申歳小前読聞請印帳 | 天保七年三月 | 米直役カ |
| 7 | 173 | 申歳小前取極請印帳 | 天保九年八月二十二日 | |
| 8 | 228 | 村方取極小前一同請印帳 | 天保十年七月十二日 | 博奕禁止 |
| 9 | 266 | 元惣社村東組小前取極連印帳 | 天保十二年二月二十九日 | 手慰 |
| 10 | 242 | 村方取極小前一同請印帳 | 天保十二年十七日 | 博奕禁止 |
| 11 | 221 | 百姓代見立面付帳 | 天保十五年九月 | |
| 12 | 224 | 村方取極小前一同請印帳 | 弘化二年七月二十一日 | 博奕禁止 |
| 13 | 219 | 百姓代見立小前面付帳 | 弘化二年九月十四日 | |
| 14 | 217 | 名主見立小前面付帳 | 弘化三年二月 | |
| 15 | 237 | 村方取極小前一同請印帳 | 弘化四年七月 | 博奕禁止・祭礼について |
| 16 | 63 | 祭礼ニ付小前取極メ印形帳 | 弘化四年八月 | |
| 17 | 223 | 組頭見立小前面付帳 | 弘化四年十七日 | |
| 18 | 223 | 村方取極小前一同請印帳 | 嘉永元年九月 | 博奕禁止・用水路・倹約 |
| 19 | 225 | 〃 | 嘉永二年七月 | 〃 |
| 20 | 216 | 又右衛門跡役名主見立小前面付帳 | 嘉永四年十二月十六日 | |

## 二、年貢・諸入用

| | | | |
|---|---|---|---|
| 21 | 8 | 国七惣作小前面付覚帳 | 嘉永五年五月二十八日 |
| 22 | 121 | 御達書 | 嘉永六年六月 |
| 23 | 218 | 百姓代見立入札面付控帳 | 嘉永七年七月二十二日 |
| 24 | 215 | 与兵衛跡役組頭見立小前面付帳 | 安政六年九月二十八日 |
| 25 | 211 | 儀作跡役組頭見立小前面付帳 | 万延元年七月二日 |
| 26 | 62 | 御改革小前江申渡連印帳 | 文久三年二月十八日 |
| 27～46 | 94～109<br>115・116<br>181・182 | 御用留類 | 文政十一年～慶応四年 |
| | | | 計二十冊、文久二年は二冊アリ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 114 | 御請証文連印調下書 | 寛政四年二月 |
| 2 | 260 | 元惣社村市兵衛如未書上帳 | 文政六年 |
| 3 | 1 | 村惣作田反別取米調帳 | 文政十年六月 |
| 4 | 90 | 五左衛門出入諸入用割合帳 | 文政十二年八月 |
| 5 | 207 | 万雑請負入用御改人足帳 | 文政十三年三月十八日 |
| 6 | 130 | 万雑請負入用御改入用帳 | 文政十三年三月 |
| 7 | 44 | 年々籾納面付覚帳 | 天保二年 |
| 8 | 43 | 村方融通麦御尋ニ付書上帳 | 天保五年九月十四日 |
| 9 | 5 | 戌歳田方御見分願小前連印帳 | 天保九年九月五日 |
| 10 | 25 | 田方不熟見込鎌留小前請印帳 | 天保十二年九月 |
| 11～17 | 191・201<br>203・204<br>262・263・265 | 元惣社村年貢割付帳 | 嘉永五年 |
| | | | 万雑諸入用請負年貢未進 |
| | | | 嘉永五年より五ヶ年定免<br>小見分（192 262）二冊<br>屋敷分（201）一冊<br>北川西川分（203）一冊 |

## 三、土地

| | | | |
|---|---|---|---|
| 18 | 4 | 越石高取調小前面付帳 | 安政三年二月六日 |
| 19 | 269 | 田方割合夏夫銭取立帳 | 安政四年六月吉日 |
| 20 | 268 | 田方割合冬夫銭取立帳 | 安政四年十二月朔日 |
| 21～29 | 191・193・195<br>197・198・200<br>202・205・264 | 元惣社村年貢割付帳 | 安政四年 |
| 30 | 236 | 未年割付内夏夫銭取立帳 | 安政六年六月 |
| 31 | 276 | 割内冬銭取立帳 | 安政六年十二月 |
| 32 | 214 | 当人掛諸入用取立帳 | 万延元年七月 |
| 33 | 232 | 御上様御出役諸入用帳 | 慶応三年十一月 |
| 34 | 28 | 田方不熟鎌留小前請印帳 | 不明 |
| 35 | 179 | 申歳年貢諸入用覚帳 | 酉年七月 |
| | | | 弥勒分（204）一冊<br>寺田芦田分（263）一冊<br>新田分（265）一冊 |
| | | | 安政五年より五ヶ年定免<br>新田分（191）一冊<br>稲葉分（193）一冊<br>弥勒分（195）一冊<br>小見分（197）一冊<br>芦田分（198）一冊<br>小見革作分（200）一冊<br>西川北川分（202）一冊<br>屋敷分（205）一冊<br>落合早道分（264）一冊 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 156 | 寺田芦田虫付場反別小前帳 | 文化十四年十月 |
| 2 | 82 | 畑方名寄帳 | 文政三年二月 |

| 34 | 33 | 32 | 31 | 30 | 29 | 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | 23 | 21・22 | 20 | 19 | 18 | 5～17 | 3・4 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 60 | 245 | 3 | 61 | 185 | 87 | 85 | 51 | 178 | 129 | 127 | 161・199 | 86 | 83 | 93 | 206・257・258 | 152～155<br>158～160<br>189・194・196 | 271<br>272 |
| 田方土地割合小前面付帳 | 田畑奥印控帳 | 田方名寄帳 | 田方地割取調書上帳 | 田畑奥印帳 | 新田畑名寄帳全 | 畑方名寄帳全 | 田方名寄帳全 | 田畑奥印控帳 | 寅歳田方勘定帳 | 田畑奥印帳 | 田畑奥印扣覚帳 | 田畑郷寄差出帳 | 畑方名寄帳全 | 田方名寄帳全 | 新田畑名寄帳全 | 田畑反別改元帳 | 田畑郷寄竹札入 |
| 安政三年三月 | 安政二年二月 | 安政三年十月 | 安政二年六月 | 嘉永二年三月 | 天保十三年 | 天保十三年三月 | 天保十三年 | 天保十三年正月 | 天保十三年九月 | 文政十三年正月吉日 | 文政十二年正月吉日 | 文政七年三月 | 文政三年七月 | 文政七年三月一日 | 文政七年三月 | 文政五年三月 | 文政五年三月 |
| 後半部欠 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 一冊 | 二冊 | 二冊 | 一冊 | 二冊 | 二冊 | 二冊 | 二冊 | 二冊 | 二冊 | 二冊 | 一冊 | 一冊 | 二冊 | 二冊 | 二冊 | 稲葉地分（159）一冊<br>小見分（160 196）二冊<br>芦寺田分（158 206）二冊<br>早落道合分（155 194）二冊<br>弥勒分（153 257）二冊<br>新田分（152 154）二冊<br>屋敷分（258）一冊 | 二箱・木箱 |

## 四、宗門・人別

| 43 | 42 | 41 | 40 | 39 | 37・38 | 37 | 36 | 35 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 247 | 259 | 162 | 147 | 135 | 244・246 | 225 | 88 | 6 |
| 名寄帳カ | | 名寄帳 | 畑方名寄帳 | 西組ヨリ東組江田畑新田共送帳 | 畑方名寄帳（上・下） | 新田田畑名寄帳全 | 田方名寄帳全 | 田方割合小前面付帳 |
| 不明 | | 不明 | 不明 | 安政三年 | 安政三年四月 | 安政四月三年 | 安政四月三年 | 安政三年 |
| | | 内藤分村 | 表紙欠 | | | | | |
| 表紙欠 | | | | | | | | |

| 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 138 | 132 | 131 | 118 | 117 | 113 | 112 | 136 | 139 | 134 | 238 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 上野国群馬郡元惣社村宗門人別御改帳 | 〃 | 田畑持高家数人別書上帳 | 午年ゟ当年迄七ヶ年人別御改扣 | 田畑家数人別小前帳 | 五人組新改帳 |
| 慶応四年八月 | 文久三年八月 | 文久二年八月 | 安政六年八月 | 安政五年八月 | 安政四年八月 | 安政二年四月 | 安政二年四月 | 嘉永五年五月十二日 | 天保十三年四月 | 文政元年八月 |

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10～12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 45 | 18 | 19 | 20 | 76 | 50 | 209 | 208 | 57 | 64～66 | 133 | 36 | 22 | 33 | 241 |
| 村囲米酉歳御解下当卯歳積戻取立帳 | 囲米御解下積戻御拝借米四分一御返取立帳 | 当村囲米拝借小前割渡帳 | 当村囲米拝借之上値入請出取立帳 | 当村囲米御解下ヶ小前面付帳 | 当村囲米御解下小前割帳 | 夫食金御請小前連印帳 | 郷御蔵□帳下書 | 当村囲米御解ヶ小前渡面付帳 | 御救助麦割渡書上帳 | 極貧窮人取調書上帳 | 御上様御下麦村囲麦引替貸渡帳 | 村囲米積戻帳 | 当村囲米御解下ヶ小前面付帳 | 村囲米積戻控帳 |
| 文政二年十一月一日 | 文政十一年十二月 | 文政七年十二月二十八日 | 文政八年七月六日 | 文政九年 | 文政十一年五月・十二月二十九日 | 天保四年二月 | 天保七年春 | 天保八年二月 | 天保八年二月・四月・五月 | 天保八年三月 | 天保十三年六月 | 天保十三年十二月 | 弘化二年二月 | 弘化二年十一月六日 |

| 12～31 |
|---|
| 49・119・120・141～151<br>248～250・252・253<br>255・256 |
| 出生人死失人書上帳 |
| 文政六年三月～<br>慶応二年三月 |
| 計二十冊、前年の出生人・死失人を書上げた綴 |

| 18 | 19 | 20 | 21・22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37・38 | 39 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 26 | 40 | 80 | 38・39 | 24 | 27 | 34 | 49 | 53 | 186 | 17 | 81 | 41 | 79 | 58 | 23 | 212 | 48 | 52・54 | 84 |
| 当村囲米御下ヶ小前面付帳 | 御上様御下麦村囲麦新麦貸渡帳 | 極貧窮人書上帳 | 御上様御下麦村囲麦新麦貸渡帳 | 天休院様百回忌貧民救麦御下割渡面付帳 | 天休院様百回忌貧民救麦御下割渡割渡帳 | 当村囲米御解下ヶ小前付帳 | 御上様御下麦村囲麦新麦貸渡帳 | 村囲米解下ヶ小前貸付面付帳 | 殿様御貸付金証文面付帳 | 当村囲米解下小前面付帳 | 成善院様御年回＝付貧民御救麦之外割渡帳 | 御拝借年賦米取立帳 | 極貧窮人取調帳 | 当村囲米御解下ヶ小前割渡面付帳 | 村囲麦積戻取立帳 | 郷御蔵□帳面付覚 | 御上様御下麦村囲麦新麦貸渡帳 | 当村囲米御解下小前面付帳 | 村囲米積戻小前面付帳 |
| 弘化三年二月 | 弘化三年六月 | 弘化三年九月 | 弘化四年六月 | 嘉永二年四月 | 嘉永二年四月 | 嘉永二年四月 | 嘉永六年六月 | 嘉永七年十月十五日 | 嘉永七年十一月二十三日 | 嘉永十年一月 | 安政二年九月 | 安政三年十一月 | 安政四年十一月 | 安政七年二月 | 万延元年十一月二十三日 | 万延元年十二月二十三日 | 文久元年六月 | 慶応三年四月十九日 | 慶応三年十一月二十八日 |

## 六、新竹改

| 40～58 |
|---|
| 9～16・21・29～32<br>35・37・91・92・110<br>111 |
| 御上様御下麦村囲麦新麦<br>引替帳 |
| 文政四年～<br>慶応三年 |
| 計十六冊、慶応元年<br>は三冊アリ |

| 15 | 14 | 1～13 |
|---|---|---|
| 239 | 42 | 67～74・77・78<br>234・235・240 |
| 〃 | 無題 | 新竹改書上帳 |
| 辰年 | 亥八月 | 天保二年・弘化二・四年<br>嘉永三・五～七年<br>安政二・三年<br>文久二年・慶応三年<br>八月　各年一冊 |
| 表紙欠・竹改帳カ | 竹改帳カ | |

## 七、産業・交通・金融

| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 172 | 170 | 213 | 230 | 174 | 177 | 183 | 175 | 184 |
| 喰物商人取極小前帳 | 村方喰物商取極請印帳 | 疵人馬面付帳 | 牛馬名主入札小前面付書上帳 | 小前帳 | 高崎宿加助人馬勤高取調帳 | 〃 | 去辰年人馬継高調書上帳 | 植野元惣社人足通 |
| 天保九年七月二十二日 | 天保九月五年 | 天保三年 | 文政十三年四月 | 文政十一年六月 | 文政三年八月 | 文政五年六月二十日 | 文政四年五月二十一日 | 文政二年吉日 |
| | | | 遅刻の一件 | | | | | |

## 八、堰・普請

| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|
| 251 | 89 | 47 | 46 | 122 |
| 覚 | 御本丸御普請御手伝夫金割合帳 | 〃 | 天狗岩堰諸邑割付帳 | 来寅春天狗岩堰御料私料代永物実割帳 |
| 卯年十月 | 嘉永元年 | 天保九年二月二日 | 天保八年二月十一日 | 明和六年十二月 |
| 関東川普請 | 三納当年切 | | | |

| 31 | 30 | 29 | 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | 23 | 20～22 | 19 | 12～18 | 11 | 10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 171 | 166 | 180 | 190 | 210 | 176 | 270 | 164 | 163 | 168<br>1～3 | 165 | 161<br>1～7 | 261 | 169 |
| □□田方肥之儀石灰 | 当卯年積立繭取調書上帳 | 繭積穀小前面付帳 | 硝石御見分之処取調書上帳 | 作日雇并請取事取極帳 | 御伝馬一時□□連印帳 | 田方上地西附并五箇年勧農 | 〃 | 五ヶ年積金割合元帳 | 〃 | 石上寺頼母子講割渡元帳 | 石上寺頼母子掛金取立帳 | 石上寺頼母子面付元帳 | 村方喰物商停止請印帳 |
| 不明 | 慶応七月二十三日 | 慶応三年七月二十二日 | 慶応元年十一月 | 文久三年六月 | 文久三年四月二日 | 万延二年二月 | 安政五年六月二十四日 | 安政四年十二月 | 嘉永二・三年 | 嘉永二年二月二十日 | 天保十四年～嘉永元年 | 天保十四年二月 | 天保十年六月二十日 |
| 差出元惣社村西組名主儀作 | | | | | | | | | | | | | |

## 九、世相

| 整理番号 | 書号文番 | 標題 | 年次 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 1～2 | 123・124 | 甲州無宿武州本庄宿ニ而掛合一件 | 文政八年五月 | |
| 3 | 128 | 高崎赤城町武七後家屋敷分友吉掛合一件 | 文政七年十月 | |
| 4 | 137 | 記 | 慶応三年 | 盗難等 |

## 十、その他

| 整理番号 | 書号文番 | 標題 | 年次 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 1～2 | 125～126 | 元惣社村永治尋一札帳 | 文化九年六月 | |
| 3 | 243 | 不明 | 天保十三年十二月 | 断欠 |

## Ⅱ 明治・大正時代（文書番号500～1140）

### 一、議会・選挙

| 整理番号 | 書号文番 | 標題 | 年次 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 718 | 惣代人投票小前連名帳 | 明治十年八月十一日 | |
| 2 | 721 | 社倉積穀検査人投票連名帳 | 明治十一年十一月六日 | |
| 3 | 734 | 戸長役人願書 | 明治十一年十二月六日 | 元惣社・大友・内藤分・大渡村含四ヶ村戸長選挙の件 |
| 4 | 751 | 吏員改正ニ付伍長集評決定概目 | 明治十二年二月八日 | |
| 5 | 779 | 村会議員長投票連署 | 明治十二年五月九日 | 徴集組合戸長役場 |
| 6 | 767 | 当選状御受書綴 | 明治十二年五月 | |
| 7 | 714 | 西群馬郡序戸長議目 | 明治十二年六月二十五日～二十六日 | 元惣社外三ヶ村用掛 |
| 8 | 739 | 伍長頭取締伍長頭投票小前連名帳 | 明治十二年 | |
| 9 | 793 | 群馬県会概則并傍聴録 | 明治十二年 | |
| 10 | 716 | 衛生委員用掛筆正投票連名簿 | 明治十三年五月十九日 | |
| 11 | 717 | 衛生委員改選投票連名簿 | 明治十五年七月十四日 | |
| 12 | 747 | 役人投票連名帳（学務委員・衛生委員） | 明治十五年十二月 | |
| 13 | 712 | 投票連署簿 | 明治十六年 | |
| 14 | 748 | 戸長投票役人願連署簿 | 明治十六年 | |
| 15 | 749 | 選挙連名簿（常詰用係・租税用係） | 明治十七年四月 | |
| 16 | 750 | 村会議員投票連名簿 | 明治十七年 | |
| 17 | 852 | 諸誓約并申合書綴 | 明治二十一年七月 | |
| 18 | 931 | 町村会選挙元簿 | 明治二十二年十月閏日 | |
| 19 | 993 | 西群馬郡元惣社村々会第八回廿四年度決議録 | 明治二十四年度 | |
| 20 | 924 | 第一種 | 明治三十八年度 | |
| 21 | 1005 | 〃 | 明治三十二・三十四・四十・四十五年度 | 村会・庶務・会計・税務他 |
| 22 | 934 | 衆議院議員選挙人名簿副本 | 明治三十九年十月一日 | 現在調 |
| 23 | 988 | 県会議員選挙人名簿 | 明治四十一年 | |
| 24 | 923 | 村会議書 | 明治四十一年 | |
| 25～57 | 673～705 | 御用留 | 明治二～十六年 | 計三十三冊 |
| 58 | 925 | 村会外第一種 | 明治二～十六年 | |
| 59 | 766 | 村伍長人名簿 | 不明・明治ヵ | |
| 60 | 932 | 県議会議員選挙人名簿 | 不明・明治ヵ | |
| 61 | 933 | 郡会議員選挙人名簿 | 大正四年八月二十六日 | 元惣社・大友・内藤分・大渡村の四村 〃 |

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5～7 | 8・9 | 10 | 11・12 | 13 | 14・15 | 16 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 527 | 841 | 837 | 868 | 629～631 | 611<br>612 | 530 | 617<br>618 | 518 | 610<br>621 | 516 |
| 当申田方御検見内見帳 | 租税皆済帳 | 当壬申租税上納割賦帳 | 当時租税上納割賦帳 | 癸酉畑方永納租税元増立取帳 | 去ル辛未・壬申両歳分川々国役金取立帳 | 当酉田方御検見内見帳 | 酉冬夫銭反掛取立帳上・下 | 癸酉田方米納石代金取立帳 | 去壬申歳分川々国役金取立帳 | 癸酉歳米永金二納立替上納取立帳 |
| 明治五年九月 | 〃 | 〃 | 明治五年～九年五月 | 明治六年八月 | 明治六年十月 | 明治六年十一月 | 明治六年十二月 | 明治七年一月 | 明治七年二月 | 明治七年四月 |
| 二冊・合綴 | 大神宮内藤分村 | 明治七年の租税皆済帳合綴計十冊 | 十六冊合綴 | 四冊 | | | | | | |

| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23・24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29・30 | 31 | 32 | 33・34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1003 | 759<br>—<br>1 | 534 | 720 | 632 | 529 | 613<br>614 | 532 | 517 | 660 | 519 | 513<br>515 | 817 | 602<br>—<br>1 | 619<br>620 | 633 | 528 | 659 | 523 | 866 |
| 癸酉租税上納割賦帳 | 民費分掛取纏帳 | 万雑諸入費惣反別割合取立帳 | 仮御免状 | 甲戌畑方租税永納元増取立帳 | 当甲戌田方内見帳 | 去癸酉歳川々国役金取立帳 | 万雑入費冬割合取立帳 | 区長并村役人給戸数割取立帳 | 甲戌田方米納石代金取立帳 | 乙亥民費月々調反掛割元帳 | 戊田方御検見諸入費取立帳 | 御租税取立金番人控帳 | 万雑入費夏割合取立帳 | 去甲戌歳川々国役金取立帳 | 乙亥畑方租税永納元増取立帳 | 当明治八年田方内見帳 | 乙亥田方米納石代金取立帳 | 丙子民費月々調反掛割合元帳 | 乙亥租税上納割附帳 |
| 明治七年 | 明治六月<br>明治七年七月 | 〃 | 明治七年八月 | 明治七年九月 | 明治七年十月 | 〃 | 明治七年十二月 | 〃 | 明治八年一月 | 〃 | 明治八年三月十一日 | 〃 | 明治八年七月 | 明治八年九月 | 〃 | 明治八年十月 | 明治九年一月 | 〃 | 明治九年五月 |
| 元惣社村の由来高 | | | | | | | | | 上巻 | | | | 四冊合綴 | | 五冊合綴・米納石代取立帳を含む | | 上巻 | | |

| 62 | 63 | 64 | 65 |
|---|---|---|---|
| 1044 | 1058 | 1047 | 1058<br>—<br>2 |
| 議事・村会議録綴 | 衆議院議員選挙人名簿 | 元惣社村村会会議録綴 | 県会議員選挙人名簿 |
| 大正五年 | 大正六年十月一日 | 大正八・十三～十五年 | 大正十一年・十五年 |

| 63 | 62 | 61 | 60 | 59 | 58 | 57 | 56 | 54～55 | 50～53 | 49 | 48 | 47 | 46 | 45～47 | 44 | 43 | 42 | 41 | 40 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 576 | 625 | 644 | 520 | 658 | 645 | 577 | 598 | 608～628 | 593～594<br>597～599 | 738 | 626 | 586 | 655 | 524～526 | 522 | 533 | 607 | 531 | 722 |
| 上納金取立帳 | 戊寅田方新税百分二ヶ半 | 明治十一年両年山野税仮納取立帳 | 上納金取立帳 | 戊寅民費月々調反掛割合 | 丁丑分米納石代金取立帳 | 上納金取立帳 | 田方新税百分二ヶ半上納 | 丁丑畑方米永納元増取立帳 | 改正万雑入費夏割合取立帳 | 民費遣払勘定帳 | 丙子畑方米納金仮納内割賦帳 | 丁丑民費日々調反掛割合 | 丙子田方米納石代金取立帳 | 丙子田方新税百分三上納金平均帳 | 丙子畑方新税百分三上納金平均帳 | 検地万雑入費冬割合取立帳 | 丙子畑方租税永納元増取立帳 | 検見万雑入費夏割合取立帳 | 民費課出帳 |
| 明治十一年 | 明治十一年 | 明治十一年七月 | 〃 | 明治十一年一月 | 〃 | 明治　十年 | 明治十二年 | 明治　十年八月 | 明治　十年六月 | 明治　十年一月上半季 | 〃 | 〃 | 明治　十年一月 | 〃 | 明治　九年 | 明治十一年十一月 | 明治九年九月 | 明治　九年八月 | 明治　九年七月～十月八日 |
| | | | | | | | 四冊合綴 | 地租改正ニ付明治八年納辻ヲ以仮収納ス | 四冊 | | | | 下巻 | | | | 地租改正ニ付明治八年其成金算丈収納四冊合綴 | 四冊合綴 | |

| 90 | 88・89 | 87 | 86 | 85 | 83・84 | 77～82 | 76 | 72～75 | 70・71 | 69 | 68 | 66・67 | 65 | 64 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 590 | 570<br>580 | 651 | 579 | 567 | 648<br>649 | 581・592<br>601～604 | 552 | 548・550<br>549・646 | 587<br>600 | 578 | 554 | 571<br>572 | 536 | 568 |
| 改正万雑入費夏割合取立帳 | 地方税戸数凡二分賦課取立帳 | 己卯田方新税百分ノ二ヶ半上納金取立帳 | 地方税戸数凡二分五厘賦課取立帳 | 地方税戸数二分五厘入帳 | 己卯田方新税百分ノ二ヶ半上納金取立帳 | 己卯万雑入費冬割合取立帳 | 地方税戸数二期賦課取立入帳 | 己卯畑方新税百分ノ二ヶ半上納金取立帳 | 己卯万雑入費夏割合取立帳 | 地方税戸数割二分五厘賦課取立帳 | 地方税戸数割二分五厘賦課取金入帳 | 地方税戸数割二分五厘賦課取立帳 | 地方税戸数凡二分五厘賦課取立帳 | 地方税戸数凡五分賦課取立帳 |
| 〃 | 明治十三年八月 | 明治十三年三月十三日 | 〃二月 | 明治十三年 | 明治十二年 | 明治十二年十二月 | 明治十二年十一月 | 〃 | 〃 | 〃 | 明治十二年八月 | 明治十二年七月 | 明治十二年六月 | 明治十二年三月 |
| | | | | | | | | | | | | | | 明治十一年十二月ヨリ十二年六月迄 |

| 91 | 92・93 | 94・95 | 96 | 97・98 | 99 | 100 | 101 | 102 | 103 | 104 | 105 | 106 | 107 | 108・109 | 110 | 111 | 112 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 591 | 537<br>569 | 647<br>652 | 623 | 615<br>622 | 557 | 575 | 586 | 592<br>—<br>1 | 545 | 541 | 627 | 653 | 654 | 573<br>574 | 616 | 643 | 596 |
| 庚辰万雑入費冬割合取立帳 | 地方税戸数㐂三分賦課取立帳 | 庚辰田方新税百分二ヶ半上納金取立帳 | 口期地方税二分賦課取立帳 | 改正万雑入費夏割合取立帳 | 辛己畑山林税百分ノ二ヶ半上納金取立帳 | 辛己畑山林税第二期納取立入帳 | 辛己万雑冬割合取立帳 | 辛己田方第一期万雑冬割合取立入帳 | 庚辰田方新税百分二ヶ半上納金入帳 | 辛己田方税百分二ヶ半上納金取立帳 | 丙子地租未納金五ヶ年賦割取立帳 | 辛己田方税百分二ヶ半上納金取立入帳 | 丙子未納五ヶ年賦上納金取立出入帳 | 壬午畑山林税百分二ヶ半上納金取立帳 | 地方税儲蓄雑水費共取立出入帳 | 山林税九十年分百分三分ノ二ヶ半未納金取立帳 | 壬午田方百分二ヶ半上納金取立入帳 |
| 明治十三年十二月 | 〃 | 明治十三年 | 明治十四年六月 | 明治十四年八月 | 〃 | 明治十四年十月<br>明治十四年十二月 | 〃 | 明治十四年 | 明治十五年二月 | 〃 | | 〃 | 〃 | 明治十五年八月 | 〃 | 明治十五年十月 | 明治十五年十二月 |
| | | | 二冊合綴 | | | | | | | | 四冊合綴 | | | | | | |

| 113 | 114 | 115 | 116 | 117・118 | 119・120 | 121 | 122 | 123 | 124 | 125 | 126 | 127 | 128 | 129 | 130 | 131 | 132 | 133 | 134 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 555 | 785 | 556 | 624 | 656<br>657 | 546<br>547 | 650 | 1018 | 727 | 996 | 894 | 965 | 896 | 959 | 904 | 901 | 902 | 903 | 1006 | 895 |
| 地方税戸数割取立入帳 | 未畑方租税取立牒 | 癸未畑山林税百分二ヶ半上納取立入帳 | 未田方税金取立入帳 | 地方税公儲金地価金賦課取立帳 | 甲申畑宅地山林税百分二ヶ半上納金取立帳 | 甲申田方租税百分二ヶ半上納金取立帳 | 免租額 | 領収証書 | 歳入出予算表他 | 歳出簿 | 国税収納簿 | 領収証綴込 | 国税細別調査表 | 支出命令原簿 | 歳入簿 | 収入命令原簿 | 支出命令原簿 | 村税・県税・営業雑種税関係書類一括 | 支出命令原簿 |
| 明治十六年二月 | 明治十六年八月初メ | 明治十六年十月 | 明治十六年十二月 | 明治十七年七月 | 明治十七年八月 | 明治十七年十二月 | 明治二十一年 | 明治二十三年二月〜二十六年一月 | 明治二十六年度 | 明治二十八年度 | 明治三十年 | 明治三十二年 | 明治三十六年三月分 | 明治三十七年度 | 明治三十八年度 | 〃 | 〃 | 明治三十九・四十一〜四十五年 | 明治四十年度 |
| 田方未納 | | | | | | | | 棄児養育料下附につき議長用 | | | | | 一綴 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 135 | 136 | 137 | 138 | 139 | 140 | 141 | 142 | 143 | 144 | 145 | 146 | 147 | 148 | 149 | 150 | 151 | 152 | 153 | 154 | 155 | 156 | 157 |
| 897 | 930 | 888 | 905 | 1001 | 964 | 909 | 942 | 951 | 953 | 952 | 877 | 954 | 899 | 900 | 919 | 935 | 957 | 958 | 956 | 960 | 929 | 937 |
| 区費支出命令簿 | 村税歳出簿 | 県税・営業雑種税標準届 | 支出命令簿 | 収入命令簿 | 国税随時収□ | 村税地価割徴収簿 | 県税地租割徴収簿 | 区費徴収簿 | 国税金収納簿 | 国税金収納集計簿 | 県税地租割・村税地価割徴収原簿 | 国税金収納簿 | 県税収納簿 | 県税収入支出命令簿 | 県税・雑種・営業月税徴税命令書綴 | 県税随時徴収税命令書綴 | 村税地価割徴収簿 | 県税地租割徴収簿 | 国税金収納集計簿 | 国税納額通知書 | 国税県税納付書類 | 発収簿 |
| 明治四十一年度 | 〃 | 明治四十一年 | 明治四十二年度 | 〃 | 〃 | 明治四十三年 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 明治四十四年 | 〃 | 明治四十五年 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 158 | 159 | 160 | 161 | 162 | 163 | 164 | 165 | 166 | 167 | 168 | 169 | 170 | 171 | 172 | 173 | 174 | 175 | 176 |
| 1007 | 509 | 589 | 1088 | 1099 | 1123 | 1049 | 1100 | 1124 | 1138 | 1090 | 1065 | 1089 | 1125 | 1085 | 1091 | 1126 | 1102 | 1127 |
| 有地租集計簿 | 諸役用勤面附扣 | 標題なし | 県税附加税所得徴収簿 | 随時収入諸税収納簿 | 国税金収納簿 | 税務等書類綴 | 村税戸別割徴収簿 | 国税金収納簿 | 村税地価割徴収簿 | 県税収入支出命令簿 | 収支日計簿 | 県税・営業税徴収簿 | 国税金収納簿 | 県税戸数割徴収簿 | 県税地租割・村税地価割徴収 | 国税金収納簿 | 自家用醤油税に関する書類税収納簿 | 国税金収納簿 |
| 明治四十五年 | 明治ヵ亥一月　五日迄 | 不詳　明治ヵ | 大正　元年 | 〃 | 〃 | 大正　二年一月～五月 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 大正　三年 | 〃 | 大正四～六年 | 大正　四年 | 〃 | 〃 | 大正　五年 |
| | | 万雑入費取立入帳ヵ | 二冊合綴 | | | | | 二冊合綴 | | 三冊合綴 | 二冊合綴 | | 四冊合綴 | 三冊合綴 | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 177 | 178 | 179 | 180 | 181 | 182 | 183 | 184 | 185 | 186 | 187 | 188 | 189 | 190 | 191・192 | 193 | 194 | 195 |
| 1103 | 1109 | 1114 | 1038 | 1104 | 1093 | 1128 | 1116 | 1095 | 1096 | 1105 | 1066 | 1112 | 1120 | 1121<br>1122 | 1067 | 1117 | 1097 |
| 村税地価割徴収簿 | 家主寄留者ニ対スル納税及税外保証書綴 | 県税□□□ | 予算表決算表等決議録綴 | 村税・雑種税・割徴収簿・村税戸別割徴収簿 | 県税雑種税徴収簿 | 国税金収納簿 | 税務書類 | 県税営業税雑種税課税台帳 | 課税標準届 | 区費・水費・歳入・歳出簿 | 雑支出日計簿 | 水費領収証綴 | 税務書類 | 税務ニ関スル書類 | 特別領収証綴附スル会計ニ関スル書類綴 | 雑種税開業綴 | 営業税廃業綴 |
| 大正　五年 | 〃 | 〃 | 大正　六年 | 〃 | 〃 | 〃 | 大正　八年 | 大正　九年 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 大正　十年 | 〃 | 自大正十年度 | 大正十一年 | 大正十二年 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 196 | 197 | 198 | 199 | 200 | 201 | 202 | 203 | 204 | 205 | 206 | 207 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 1110 | 1118 | 1098 | 1119 | 1068 | 1069 | 1079 | 1094 | 560 | 1092 | 1114 | 501 | 786 | 871 | 827 | 828 |
| 国税ニ関スル書類 | 納税組合規約 | 県税営業税雑種税課税台帳 | 県税・県税外会計書類綴 | 歳出簿 | 発収簿 | 〃 | 課税標準届 | 田方賦課取立帳 | 県税・雑種税徴収簿 | 県税開□ | 田方不熟見込鎌留小前請印帳 | 大友村越石分 | 畑方名寄帳 | 新田田畑名寄帳 | 新田田畑名寄帳 |
| 大正十三年 | 〃 | 大正十四年調 | 大正十五年 | 〃 | 大正二～四・八～十二・十四年 | 大正九・十三年 | 大正五～十一年 | 不　明 | 不　明 | 不　明 | 不明・明治カ | 明治　三年 | 明治　四年四月改 | 〃 | 明治　五年十月 |
| | | | | | 八冊合綴 | 三冊合綴うち年次不明一冊あり | 二冊合綴 | | | | | 大友村分 | 五冊合綴内・公有記録（明治十三年六月五日）文書一冊・田方名寄帳（明治五年）一冊を含む | 三冊合綴内畑方名寄帳一冊・田方名寄帳一冊を含む | |

## 三、土地（地租改正・地図・山林含）

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 23 | 22 | 20・21 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | | | | | | | | |
| 1000 | 723 | 870<br>886 | 989 | 765 | 941 | 830 | 1023 | 850 | 944 | 847 | 833 | 864 | 777 | 844 | 641 | 855 | 822 | | | | | | | | |
| 字小見内三斜縄入帳 | 地租改正百姓惣代投票確定証 | 田畑名寄帳 | 地引牒 | 地主惣代人誓約書 | 地租改正代理人投票確定証 | 地計帳 | 字寺田周囲地引案内帳 | 字西川周囲地引案内帳 | 地券証御書換願控帳 | 地券証御書換書類 | 地券証御書換願 | 新規大縄場書類入 | 地所売買公証簿取調帳 | 一筆限反別代価取調書上帳 | 地券取調反別名寄帳 | 御朱印除地反別御払下地価附表 | 新田畑名寄帳 | | | | | | | | |
| 〃 | 明治九年 | 明治九年十二月 | 明治十九年十二月 | 明治十九年十月十日 | 明治十九年四日 | 明治九年十月 | 〃 | 明治九年三月 | 明治九年一月 | 明治八年〜十二年 | 明治八年八月 | 明治七年 | 明治六年〜二十年一月 | 〃 | 明治六年四月 | 明治六年三月 | 明治五年十月 | | | | | | | | |
| 五冊<br>（870が四冊886が一冊） | | | | 地租改正の惣代人 | 二冊合綴 | | 他に字小見・字革作・字稲葉・字弥勒・字芦田の地引案内帳・地図二葉を含む | | | | 地券証書 | 四通一袋内新規大縄場願書含む | | | | | 三冊合綴内田畑名寄帳（明治九年十二月一冊・名寄帳下調〈大渡村〉明治十七年）一冊を含む | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 45 | 44 | 43 | 42 | 41 | 40 | 39 | 38 | 37 | 36 | 35 | 34 | 32・33 | 31 | 30 | 29 | 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | | | | | |
| 824 | 842 | 642 | 669 | 768 | 736<br>—<br>2 | 949 | 946 | 856<br>—<br>1 | 606 | 878 | 790 | 755<br>756 | 940 | 558 | 835 | 848 | 869 | 948 | 838 | 861 | | | | | |
| 地所書入公証（基当） | 田畑宅地山林原野合計表 | 山林新券証渡方一筆限 | 山林新地券下渡并証印税取立帳 | 社地上地田畑宅地更正地券証御下願 | 第拾番聯合雑種地入費調 | 旧地券状納方目録 | 同郡東国分村ヨリ偏入地交換地々券証取調帳 | 地所変換略図 | 帳簿 | 地券証田畑合致（タシ）方取調 | 地券証書換御願 | 地所書入簿 | 字限田等級収穫地価毛揃帳 | 更正反別田畑縄寄帳 | 共有地人名簿 | 字小見地図東国分村（江）編入之分 | 改正反別名寄帳 | 積坪上ヶ合計帳 | 耕宅地丈量検査表字限面 | 収穫地価取調帳 | 交換地図 | | | | |
| 明治十八年一月〜十二月 | 明治十七年 | 明治十四年 | 明治十四年十月 | 明治十四年七月六日 | 明治十四年三月 | 〃 | 明治十三年 | 明治十三年十二月 | 明治十三年七月吉日 | 明治十三年二月 | 明治十二年二月二十五日 | 明治十一・十五・十八年分 | 明治十一年 | 紀元二五一二年三月（明治十一年） | 明治十一年十一月九日 | 年次不明明治十年カ | 明治十年八月 | 明治十年五月 | 明治十年三月 | 明治九年 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | 大友村 | 虫喰 | 明治九年以降 | | | | 四枚一袋・東国分村六冊合綴・大友村分（明治十年三月二四日）一冊・内藤分村（明治十年）一冊・元惣社村分四冊 | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63・64 | 65・66 | 67 | 68 | 69 | 70 | 71 | 72 |
| 992 | 849 | 746 | 1016 | 1002 | 757 | 763 | 947 | 858 | 967 | 982 | 862 | 876 | 829 | 719 | 981 | 880 | 825<br>860 | 890<br>986 | 1015 | 836 | 987 | 976 | 892 | 882 |
| 野取絵図変換・開墾分裂共綴込 | 官民有地・田畑畦畔敷等字限区別合計帳 | 官有林拝借願 | 地目変換地価査定願 | 地種限調査名寄帳 | 地目変換地価査定願 | 地誌取調書類 | 田畑宅地山林原野字限等級毛撫簿 | 耕地持高取調簿 | 字限等級反別地価地租現額 | 大友村・内藤分村・大渡村共有地人名簿 | 脱落地野取絵図帳 | 西群馬郡元惣社村聯合畦畔調表 | 地種限調査名寄帳 | 西群馬郡元惣社村外三ヶ村聯合調畦畔表 | 特別地価一筆限帳 | 特別地価修正字限合計表 | 地種限調査名寄帳 | 〃 | 土地分裂御届 | 土地山林下戻申請書 | 土地所有異動通知書 | 〃 | 明治四四年度ヨリ累年綴地価地租報告綴 | 地租名寄帳 |
| 明治十八年二月 | 明治十八年五月 | 明治十八年六月 | 明治十八年 | 明治十九年十二月 | 明治十九年 | 明治二十年代初期 | 明治二十年 | 明治二十年三月 | 明治二十年 | 〃 | 〃 | 明治二十一年三月 | 明治二十一年 | 〃 | 明治二十二年十月二十三日 | 明治二十三年四月 | 明治二十三年七月 | 明治二十七年六月 | 明治二十九年 | 明治三十三年四月十八日 | 明治三十九年 | 明治四十三年 | | 明治四十四年 |
| 職 | | 徳蔵寺住職他の竹林拝借県令宛 | | | | | | | | | | 大渡村 | 大友村 | | | | | | 差天台宗徳蔵寺住職笹沢然海宛長見寺住 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 73 | 74・75 | 76 | 77 | 78 | 79・80 | 81 | 82 | 83 | 84 | 85 | 86 | 87 | 88・89 | 90 | | | | | | | | | | |
| 1140 | 820<br>872 | 821 | 1017 | 839 | 885<br>968 | 881 | 884 | 879 | 823 | 1129 | 1131 | 859 | 807<br>857 | 831 | | | | | | | | | | |
| 土地所有異動通知書 | 土地名寄帳 | 土地名寄帳カ | 土地名寄補助簿 | 地引張 | 字落合・字北川并飛地周囲地引案内帳 | 地押御検査之際内堀道加除増減歩調表 | 特別地価修正一筆限帳 | 変換地券一筆限預帳 | 地券取調小前帳 | 地価割徴収簿 | 地租名寄帳 | 田畑宅地変換合計表 | 地藉五号表・民有田畑畦敷一筆限仕訳表 | 字櫛橋野取絵図他 | | | | | | | | | | |
| 明治四十五年 | 年次不詳明治カ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | | | | | | | | | | |
| | 計十一冊 | | | 地租改正関係 | | | | | | 他一号（地租割発収簿） | 四冊合綴 | | | 計十八冊 | | | | | | | | | | |
| | 宅址ノ部 | | | 字弥勒分 | | | | | | 三冊合綴大友村分・元惣社村・元大友村・元内藤分村・元大渡村 | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 91 | 856—2 | 交換地小前帳絵図面袋 | 年次不詳明治ヵ | |
| 92・93 | 840<br>991 | 字限野帳 | 〃 | 計六冊 |
| 94 | 889 | 明治九年改正原額以降地目変換査定願御指令附綴 | 〃 | |
| 95 | 506 | 田畑奥印全圓取歩帳 | 〃 | |
| 96 | 1135 | 土地所有者異動通知書 | 大正四年 | 他二袋 |
| 97〜99 | 1132<br>1133<br>1134 | 土地書類 | 大正八・十・十四年 | 一年・五年・永年保存の三種類 |
| 100 | 1136 | 土地登記ニ関スル書類 | 大正十五年 | |
| 101 | 1130 | 土地名寄帳 | 〃 | |
| 102 | 1137 | 土地名寄補助簿 | 〃 | 二冊の内弐 |
| 103〜105 | 834<br>883<br>966 | 丈量野引牒 | 不明 | |

## 四、戸口・戸籍

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 670 | 家数面附取調書上帳 | 明治二年二月十日 | |
| 2 | 671 | 家数人別取調書上帳 | 明治二年二月十日 | |
| 3〜5 | 808<br>814<br>815 | 上野国群馬郡元惣社村宗門人別御改帳 | 明治二・三・四年八月 | |
| 6 | 795 | 入籍・送籍寄留人別留記帳 | 明治六年二月 | |
| 7 | 802 | 熊谷県官轄地第四大区拾一小区戸籍番号 | 明治七年一月改 | |
| 8 | 939 | 熊谷県官轄北第四大区三小区戸籍 | 〃 | 大友村 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 804 | 入籍・送籍寄留人別留記帳 | 明治七年一月改 | |
| 10 | 870 | 熊谷県管下北第四大区拾壱小区群馬郡元惣社村戸籍惣計表 | 明治八年一月 | |
| 11 | 813 | 毎月出生死亡人送籍控帳 | 明治八年一月 | |
| 12 | 798 | 出生死亡人送籍取調書上調扣 | 明治八年五月改 | |
| 13 | 796 | 入送籍人別留記 | 明治八年十月十二日 | |
| 14 | 809 | 出生死亡人送籍取調書上帳控 | 明治九年一月 | |
| 15 | 851 | 明治九年満十四歳ヨリ十七歳迄成丁簿 天保七年出生之者ヨリ安政六年出生之届者迄 | 明治九年一月 | |
| 16 | 797 | 入送籍留記 | 明治十一年 | |
| 17 | 818 | 出生死亡人送籍月調書上元帳 | 明治十二年一月 | |
| 18 | 803 | 入送籍綴 | 明治十三年一月分 | |
| 19 | 972 | 標題なし | 〃 | 薩摩国雀ノ宮戦殁、戦死者届 |
| 20 | 875 | 戸籍取扱簿 | 明治十四年 | |
| 21 | 805 | 本籍戸主印鑑帳 | 明治十五年三月 | |
| 22 | 799 | 出生死亡人送籍取調書上 | 明治十五年七月 | |
| 23 | 801 | 入送籍綴 | 明治十五年一月ヨリ明治十六年七月迄 | |
| 24 | 890 | 戸籍取扱簿 | 明治十七年一月 | 二冊合綴 |
| 25 | 908 | 〃 | 明治十九年一月 | |
| 26 | 891—1〜5 | 〃 | 明治二十年一・二月 | 元総社分・大渡村・内藤分村 |
| 27 | 916 | 戸籍事務一覧表 | 明治三十四・三十五年 | |
| 28 | 917 | 戸籍吏事務一覧表 | 明治三十八年 | |
| 29 | 915 | 除帳簿 | 明治四十二年 | |
| 30 | 950 | 戸籍事務取扱手続準則 | 〃 | |

| 47 | 46 | 45 | 44 | 43 | 42 | 41 | 40 | 39 | 38 | 37 | 36 | 35 | 34 | 33 | 32 | 31 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1081 | 1070 | 1171 | 1072 | 914 | 1077 | 1034 | 1076 | 1083 | 1075 | 1074 | 1080 | 1084 | 911 | 800 | 873 | 1008 |
| 入寄留簿 | 寄留事務通知書 | 戸籍記載ヲ要セザル事項ニ関スル届書及其他ノ書類 | 戸籍抄本綴 | 戸籍見出帳 | 届出失期通知簿 | 戸籍事務ニ関スル往復書類等 | 復帰及退去届書書類綴 | 戸籍事務ニ関スル往復書類 | 戸籍副本及除籍副本送付簿 | 謄本抄本証明書交付帳 | 寄留受附帳 | 人口統計小票扣簿 | 入籍書類 | 壮丁相当者名簿 | 入籍通知書 | 人口統計票証入扣 |
| 不明・大正ヵ | 大正十五年 | 大正十四年 | 大正十二～十四年 | 大正十二年一月八日 | 大正九・十・十三・十五年 | 大正九年 | 大正七・十一・十三・十五年 | 大正七・十三年 | 大正四・六～十三年 | 大正四～十三年 | 大正四～六・九～十一年 | 大正三・五～十年 | 不明・明治ヵ | 明治四十五年 | 〃 | 明治四十三年 |
| 内藤分村・大渡村 | | | 三冊合綴 | | 四冊合綴表紙のみ | | 四冊合綴 | | 九冊合綴 | 十冊合綴 | 五冊合綴 | 八冊合綴 | | | | |

## 五、救済・社倉

| 48 | 792 | 壮丁名簿 | 昭和六年 | ハガミ |
|---|---|---|---|---|

| 19 | 18 | 17 | 15・16 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 8・9 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 998 | 758 | 778 | 566<br>583 | 584 | 582 | 588 | 853—1 | 853—2 | 510<br>511 | 733 | 503 | 521 | 505 | 504 | 502 | 853—1 |
| 岐阜愛知等地方震災義捐金処理 | 備荒儲蓄法ニ依リ食料下付願 | 種穀御救助願 | 備荒儲金地価金賦価取立帳 | 備荒儲蓄金地価金賦課五分取立帳 | 社倉積穀人口反別賦課取立帳 | 標題なし | 旧朱印除地粟米癸酉年分御下ケ金渡帳 | 去辰歳旧高崎藩御才覚金公債御下ケ割賦連名帳 | 凶鎌備積石穀代金取立帳 | 元高崎県ヨリ群馬県御庁江御差廻ニ相成候助成積金御下ケ願書 | 御上様御下麦村囲麦新麦引替貸付帳 | 当村囲米御解下小前面附帳 | 村囲米解下小前貸附面附帳 | 極貧窮人一時拝借金貸附帳 | 御上様御下麦村囲麦新麦引替納帳 | 御才覚金面附書上帳 |
| 明治二十四年十一月 | 明治二十年六月 | 明治二十年五月 | 明治十五年六月 | 明治十四年三月 | 明治十三年三月 | 明治十一・十二年 | 明治八年五月 | 明治七年三月 | 明治六年七月 | 明治六年五月 | 明治三年六月 | 明治三年四月 | 明治三年四月二十一日 | 明治三年三月二十九日 | 明治二年六月 | 慶応四年四月 |
| 岐阜愛知等地方震災義捐金処理 | 備荒儲蓄法ニ依リ食料下付願 | 種穀御救助願 | 備荒儲金地価金賦価取立帳 | 備荒儲蓄金地価金賦課五分取立帳 | 社倉積穀人口反別賦課取立帳 | 標題なし | 旧朱印除地粟米癸酉年分御下ケ金渡帳 | 去辰歳旧高崎藩御才覚金公債御下ケ割賦連名帳 | 凶鎌備積石穀代金取立帳 | 元高崎県ヨリ群馬県御庁江御差廻ニ相成候助成積金御下ケ願書 | 御上様御下麦村囲麦新麦引替貸付帳 | 当村囲米御解下小前面附帳 | 村囲米解下小前貸附面附帳 | 極貧窮人一時拝借金貸附帳 | 御上様御下麦村囲麦新麦引替納帳 | 御才覚金面附書上帳 |

社倉積穀について

明治十一・十二年分

河瀬県令宛明治十二年勧解

元惣社村七十三名・内藤分村二十六名・大渡村四名の窮民に対して差出元惣社村々長・宛先上毛新聞社長

## 六、新竹改・木材調

| | 1 | 2 | 3 | 20 |
|---|---|---|---|---|
| | 543 | 544 | 637 | 752 |
| | 已歳新竹改書上帳扣 | 御用木材内取調書上帳 | 檜松杉樫木取調 | 義捐金取纏送付書 |
| | 明治二年八月五日 | 明治四年 | 不明・明治ヵ | 明治二十四年十一月三日 |
| | | | | 差出元惣社村々長・宛先上毛新聞社長 |

## 七、産業・交通

| | 1・2 | 3 | 4～8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 664<br>665 | 666 | 706<br>～<br>710 | 732 | 539 | 787<br>—<br>1 | 762 | 759<br>—<br>2 | 787<br>—<br>2 | 980<br>—<br>2 | 962 | 745 | 663 | 1086 |
| | 物産取調小前帳 | 物産取調小前帳 | 〃 | 筒業営業許可願 | 畑方三期覧表 | 道敷潰地免租願 | 物産統計書綴 | 郡役所願届控 | 鉄道敷地潰地御免租願 | 桑切桑売買規約表 | 馬匹現在届書類 | 御請書 | 寅卯弐歳繭積金小前割戻覚帳 | 諸車台帳 |
| | 明治四年 | 明治七年十一月 | 明治八・九・十年分 | 明治十二年二月 | 明治十二年十二月 | 明治十七年十月十五日 | 明治十七年十二月一日 | 明治十七年 | 明治十八年二月 | 明治二十六年六月～三日 | 明治四十年～四十四年 | 不明・明治ヵ | 〃 | 大正九年 |
| | | | 計五冊 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | |

## 八、教育

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 512 | 810 | 846 | 636 | 639 | 640 | 638 | 926 | 978 | 811 | 995 | 1011 | 969 | 1050 | 1037 | 1087 | 1015 | 1056 |
| | 惣社学校生徒集綴帳 | 惣社学校資金毎戸連名帳 | 寄附金額 | 学校新築費毎戸持高反別割合取立帳 | 警察費師範学校費更正反別賦課取立帳 | 学校資本金基礎毎戸持高反別帳 | 学校資本金利子反別賦課取立帳 | 尋常小学校位置諸問会 | 大試験期日并ニ学業証書授与日御届 | 学校名簿 | 学令児童除籍簿他 | 元惣社尋常高等小学校基本蓄積寄附金人名簿 | 高等科併置願他 | 学務勧業等書類綴 | 学務綴 | 学令児童就学処理簿 | 学令児童処理簿 | 増築可校舎并校地平面図 |
| | 明治七年十一月 | 明治十一年十月 | 明治十一年十二月二十五日 | 明治十一年十二月 | 〃 | 明治十六年十二月 | 明治十七年八月 | 明治二十五年十月十日 | 明治二十六年三月二十二日 | 明治三十六年 | 明治三十七年 | 明治四十二年 | 年次不詳明治 | 大正三年 | 大正五年 | 大正七年 | 大正八・十四年 | 年次不詳大正ヵ |
| | | | 総社小建設のため | | 二冊合綴 | 〃 | | | | | | | | | | | | 一袋 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

## 九、衛生・保健

| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|
| 1061 | 1035 | 1052 | 1027 | 1028 |
| 伝染病患者台帳 | 衛生公告書等綴 | 日本赤十字社員名簿 | 隔離所新築委員日記 | 赤痢病発生患者全治死亡日計表 |
| 大正十二年 | 大正　三年 | 明治三十六～大正十一年 | 明治三十三年八月 | 明治三十二年・三十三年八月 |
| | | | | 元総社村隔離所病院事務所増築仕様書（同年七月）含む |
| | | | | 衛生報告（明治十二年八月十三日付）含む |

## 十、兵役・軍事

| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1059 | 1060 | 1022 | 943 | 1021 | 907 | 1020 |
| 兵事法令集 | 兵籍除籍簿 | 軍友会々友簿 | 兵事等書類 | 徴兵適齢各自届 | 徴兵適齢御届 | 陸軍召集条例金并説明書細務書 |
| 昭和十七年以後 | 大正十一年 | 明治三十六年三月 | 明治三十二年 | 明治二十八年 | 明治二十三・二十七・二十九年 | 明治十九年十月　九日 |
| | | | | | | |
| | | | | | | 活字一綴、一部召集について |

## 十一、社寺

| 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|
| 845 | 812 | 783—1 | 771 |
| 境内官有地一時拝借願 | 埋葬証授与姓名簿 | 社寺取調書上帳 | 惣社大神宝物取調帳 |
| 明治二十二年 | 明治十四年二月 | 明治　九年十二月 | 明治　六年四月 |
| 一綴三冊 | 二冊 | | |

## 十二、世相・祭礼

| 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1073 | 1054 | 1036 | 819 | 975 | 775 | 782 | 985 | 514 | 887 | 1013 | 867 | 979 | 973 |
| 埋葬認許証書類 | 〃 | 社寺書類等 | 檀家御名前控帳 | 墓地台帳 | 墓地絵図面等 | 神職及氏子惣代名簿 | 社寺ニ関スル書類 | 社寺明細帳 | 社寺保存協会寄附連名簿 | 埋葬認許証綴 | 寺院由緒綴 | 県社惣社神社太々講発起ニ際シ世話人増員投票 | 宝勝院再建理由 |
| 大正七・十一～十四年 | 大正　五年 | 大正　三年 | 〃 | 〃 | 年次不詳明治カ | 明治四十五年 | 〃 | 明治四十年 | 明治二十九年五月 | 〃 | 明治二十八年 | 明治二十七年一月 | 明治二十七年一月 |
| | 二通一袋 | 他に戸籍書類含む | 威徳院 | | 大友村 | | | 明治七年を含む | | | 五通 | | 宝勝院檀徒惣代 |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |

| 4 | 3 | 2 | 1 |
|---|---|---|---|
| 788 | 816 | 725 | 661 |
| 礼規則 | 祭礼検断諸費控帳 | 前面附帳乍恐以書付御届ヶ奉申上候 | 引間村大山両家質物滞小 |
| 明治十四年七月　六日 | 明治　十年十月 | 明治　七年十二月 | 明治　元年 |
| | | | 宮下儀作殿紛失の一件、楫取県令宛 |
| | | | |

## 十三、堰・道路関係

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 770 | 祭礼入費確定書 | 明治十四年九月 | |
| 6 | 794 | ホシイカ見世物御願 | 明治十四年九月 | |
| 7 | 605 | 虎列刺除御祈祷御守石炭酸水小前ゟ配賦帳 | 明治十五年七月 | |
| 8 | 769 | 祭典式御届 | 明治十八年八月 | |
| 9 | 772 | 里神楽御届 | 明治二十三年三月 | |
| 10 | 974 | 大人形装置縦覧興行御届 | 明治二十五年十月二十七日 | |

入費相嵩ミ改正につき
前橋市神明町松田秀吉届出、元総社村放光院にて（二枚）
総社神社
届書のひな形

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 507 | 天狗岩堰（癸酉）歳御普請入費書抜帳 | 明治六年十二月 | |
| 2 | 508 | 小河原堰諸邑割付帳 | 明治八年四月二十日 | |
| 3 | 865 | 字西川道路用天水敷丈量野取帳 | 明治九年カ | |
| 4 | 758 | 道路橋梁修善取調帳 | 明治十年七月 | |
| 5 | 562 | 堰入費春割田反別賦課取立帳 | 明治十一年一月 | |
| 6 | 773 | 堤防堰道路修善其外民費修築調 | 明治十一年七月～十二月六日 | |
| 7 | 540 | 堰入費春割田反別賦課取立帳 | 明治十三年 | |
| 8 | 564 | 〃 | 明治十四年三月 | |
| 9 | 559 | 堰入費春割取立入扣帳 | 明治十四年三月 | |
| 10 | 561 | 字小河原堰春割田反別賦課取立帳 | 明治十四年 | |
| 11 | 542 | 天狗岩春割田反別賦課取立入帳 | 明治十五年三月 | |
| 12・13 | 563 565 | 天狗岩小河原堰水費春割取立入帳 | 明治十六年二月 | |
| 14 | 551 | 天狗岩堰水費田反別賦課取立帳 | 明治十八年三月 | |
| 15 | 553 | 天狗岩及堰費徴集受取帳 | 明治十八年四月 | |

## 十四、届・書類一括

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 16 | 1010 | 天狗岩堰組合費徴収簿 | 明治四十四年 | |
| 17 | 806 | □□□水溝敷丈量野帳 | 年次不詳明治カ | |
| 18 | 1106 | 小河原五千石堰水費徴収簿丑歳出仮控簿 | 大正三年 | |
| 19 | 1043 | 天狗岩堰組合費徴収簿 | 大正五年 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 729 | 紛失御届書 | 明治七年八月 | |
| 2 | 741 | 逃亡御届 | 明治七年十月十三日 | |
| 3 | 711 | 請取証 | 明治十一年十月 | 高崎区御裁判所宛 |
| 4 | 726 | 紛失物届 | 明治十八年三月十九日 | 楫取県令宛 |
| 5 | 776 | 紛失御届書 | 明治八年三月 | |
| 6 | 742 | 御検査使願上書 | 明治八年四月二十五日 | 熊谷県御出役日雇越後国出身者病死ニ付 |
| 7 | 744 | 御届書 | 明治八年四月 | 工事中古銭出土につき |
| 8 | 728 | 盗難御届書 | 明治八年五月九日 | 楫取県令宛 |
| 9 | 713 | 保証書願控帳 | 明治十一年十二月 | |
| 10 | 737 | 組合寄留証出入簿 | 明治十二年九月ヨリ | |
| 11 | 854 | 県令宛諸届綴 | 明治十四年 | |
| 12 | 662 | 払物帳 | 明治十五年十月 | |
| 13 | 927 | 戸長役場書類目録 | 明治十七年八月 | 大友村 |
| 14 | 764 | 本県郡衙上申伺指令書 | 明治十八年一月以降 | |
| 15 | 863 | 誤謬訂正願 | 明治十九年四月 | |
| 16 | 918 | 各裁判所往復届 | 明治二十二年一月ヨリ | 元惣社村他三ヶ村分 |

| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24・25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32・33 | 34 | 35 | 36 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 980—1 | 963 | 1012 | 910 | 997 | 893 | 874 | 928・938 | 960 | 913 | 999 | 1039 | 1040 | 1101 | 1045<br>1046 | 1078 | 1082 | 1048 |
| 役場屋根修善諸留帳 | 入寄留届綴 | 第一種 | 加除簿 | 郡役所書類綴 | 重要書類 | 第三種 | 建物届綴 | 雛形旧度量衡御検査願 | 入寄留簿 | 印鑑帳 | 諸綴 | 〃 | 滞納金整理簿 | 書類 | 閲覧簿 | 表記綴 | 庶務書類 |
| 明治二十四年七月三十日<br>明治二十六年一月 | | 明治三十二年 | 明治三十七年 | 明治四十一年 | 明治四十二年 | 明治四十四年 | 明治四十五年 | 明治カ | 〃 | 〃 | 明治三十六・大正二〜五年 | 大正三〜五年 | 大正　三年 | 大正六年度 | 大正四・七〜十・十二年 | 大正四〜十一年 | 大正八・十・十三・十五年 |
| | | 寄留届他書類一括 | | | | 日本赤十字農・工・商・兵事他書類一括 | | | | | 五冊<br>戸籍・学務入寄留他書類一括<br>四冊<br>学務・土木・税務・社寺他書類一括 | | | 学務・兵事・日本赤十字・天狗岩・庶務他書類一括 | 六冊 | 八冊 | 四冊 |

## 十五、その他

| 1 | 2 | 3・4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 984 | 791 | 843<br>945 | 983 | 780 | 906 | 1062 | 822 | 667 |
| 建家奥張込簿 | 群馬県統計書 | 地所建物公証簿引継目録 | 元惣社村外三ヶ村戸長役場備付公簿器具目録 | 有志者寄付連名 | 愛国婦人会社員名簿 | 当直日誌 | 家屋台帳 | 籾五斗壱升六合 |
| 明治十七年一月 | 明治十七年 | 明治二十年一月 | 明治二十年六月三日 | 明治二十六年十月 | 明治三十七・三十八年 | 大正十五年 | 不明 | 〃 |
| | | | | | | | 三冊 | |

| 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1053 | 1115 | 1057 | 1063 | 668 | 912 | 1139 |
| 施風被害ニ関スル書類 | 門□ニ関スル届書綴 | 諸証明願書綴 | 吏員出張命令簿 | 取立帳 | 出寄留用紙綴 | 所属年次不明書類一括 |
| 大正九年九月四日 | 大正　九年 | 大正十一年 | 大正十五年 | 不明 | 〃 | 〃 |

## (1) 一谷山記録 一

一貞享二年、常憲院様　御朱印被成下ゐ=付、領主牧野備後守殿江同三年御朱印相渡リゐ所、備後守殿御側御用人=而甚発向之節也、然処此節ゟ御朱印領主ゟ相渡ゐ=付、備後守殿役人へ、三村留主居願正寺了念内縁有之ゐ間、宜手筋と存、願正寺逆意を企、御朱印致横領、前橋掛所を相離し別寺=成ゐ、謀計催在之ゐ、其節備後守殿へ相願ゐ趣意ハ三村ハ前橋妙安寺掛所=而ハ無之ゐ、三村ハ願正寺と申ゐ、然上ハ願正寺へ　御朱印頂戴仕度旨、御謀計願ゐ所、備後守殿被聞届、平野弥一右衛門、吉田七左衛門ゟ当寺へ申越ゐ趣ハ、備後守領内寺社　御朱印当地=而相渡ゐ様=申付ゐ、下総国猿嶋郡三村妙安寺と　御朱印御座ゐ、只今相尋ゐへハ、願正寺と申由=ゐ、寺号相違=而茂願正寺へ相渡不苦ゐ哉、為念申達ゐ段、八月十四日之日付書状同十五日夜飛脚来と、成実院主不得其意書面=被存ゐ間致参上、頂戴可仕旨返事差遣シ、夫ゟ成実院主三村へ被参、願正寺へ今度　御朱印頂戴之義=付、関宿役人中ゟ書状参ゐ所、三村ハ願正寺と申由、其方申旨不届之段呵被申ゐへハ、不調法成義申誤至極仕ゐ旨申、其節ハ当場を言抜(イヒ)ゐ由也、願正寺義扨々不忠人外成者=而言語同断之義=ゐ也、同十九日=関宿江被出、平野弥一右衛門へ逢被申ゐ而　御朱印頂戴=罷出ゐ間、御渡可被下ゐ旨被申入ゐ処、国所寺号相違=付御渡申義難成由申ゐ間、成実院主被申ゐハ、願正寺義ハ当寺掛所三村妙安寺寺内願正寺=而御座ゐ、右願正寺三村妙安寺留主(ママ)居申付置ゐ、然上ハ御領内三分村妙安寺　御朱印前橋妙安寺持=御座ゐ、則先々ゟ、大猷院様　御朱印前橋妙安寺=納置ゐ、去々年御改之節も拙僧三村妙安寺住持=而罷出　御朱印写差上申ゐ、右之通=ゐ間、先規之通拙僧頂戴仕度仍而頂戴=罷出ゐ旨被申達ゐ所平野弥一右衛門申ゐハ、先達而貴寺へ申達ゐ趣備後守へ申聞ゐ、然上ハ拙僧共取計=者難致ゐ　御朱印御渡申義不相成ゐ段申ゐ故、成実院主被申ゐ者、拙僧去々年出府=而　御朱印写差上御改相済ゐ所、　御朱印守護も不仕御改=茂不罷出、寺号茂相違之願正寺頂戴可仕筋無之ゐ、如先々拙僧江御渡被下ゐ様=と段々申入ゐ得共、不相済ゐ=付、左ゐハハ不及是非、公訴ゟ外致方無之旨被申入ゐへハ、夫ハ御心次第=可被成ゐ旨、弥一右衛門申ゐ=付、関宿ゟ被致出府浅草御坊ゟ添被取ゐ而寺社御奉行所へ被出願上ゐ口上書上左之通也

以口上書申上ゐ

一拙寺懸所下総国猿嶋郡三村妙安寺領主御朱印被成下ゐ=付、今度三村御領主牧野備後守殿御役人中ゟ以使札被申越ゐハ、御朱印者三村妙安寺と御座ゐ所、只今願正寺と申由=ゐ、寺号相違にても願正寺へ相渡し不苦ゐ哉、為念申達ゐ由=御座ゐ故、致参上頂戴可仕ゐ旨返事仕ゐ而、早々関宿江罷越、平野弥一右衛門殿へ逢ゐて、　御朱印頂戴=罷出ゐ間、御渡し可被下ゐ旨申入ゐ処、国所寺号相違=付御渡し申義難成由被申ゐ間、拙僧申ゐハ、願正寺儀者拙寺懸所三村妙安寺寺内願正寺=而御座ゐ、右願正寺三村妙安寺之留主(ママ)居=申付置ゐ、則留主居之寺号=而御座ゐ、御朱印地者妙安寺=相違無之ゐ、然上者三村妙安寺　御朱印前橋妙安寺持=御座ゐ、則先々ゟ　大猷院様御朱印前橋拙寺=納置、去々年御改之節も拙僧三村妙安寺住持=而罷出、御朱印写指上申ゐ、右之通=ゐ間、先規之通拙僧方へ頂戴仕度、仍而頂戴=罷出ゐ段申達ゐ所、先達而拙寺へ被申越ゐ趣、備後守殿江被申上ゐ者、然上ハ拙者共取計=難成ゐ間、御朱印相渡し申儀不相成ゐ段、弥一右衛門殿被申ゐ故拙僧申ゐ者、去々年出府=而　御朱印写指上御改相済ゐ間　御朱印成被下ゐ所、御朱印守護も不仕ゐ、御改=茂不罷出寺号相違之願正寺、頂戴可仕筋無御座ゐ間、御渡し被下様=段々申入ゐ得共、不被相渡ゐ=付、左ゐハハ不及是非致出府ゐ而、御奉行所へ其段申上

ゟより外致方無之旨申入ゟ得共、夫者心次第ニ可致と弥一右衛門殿被申ゟニ付、直ニ出府仕御願申上、先規之通拙寺へ　御朱印被相渡ゟ様ニ、備後守殿御役人中へ被仰付被下ゟ様ニ奉願ゟ、以上

東本願寺末寺
上野国前橋
妙安寺

貞享三年
寅八月廿三日

御奉行所

一八月廿四日於御奉行所、当寺由緒三村御朱印地ニ成ゟ訳、掛所之訳尋在之ゟニ付、口上書被差出ゟ、左之通也

口上之覚

一拙寺由緒者、　推古天皇勅願ニより而、聖徳太子於下総国三村開闢最頂院と号シゟ、年月隔リ及零落ゟ、然所ニ開山親鸞聖人之直弟、関東廿四輩之内第六番目成然上人、俗姓者藤原氏九條中村幸実卿と申ゟ無実之依讒配流ニ而御座ゟ、開山聖人と依為親類弟子と成、法名成然と賜、常隨昵近ニ而御座ゟ処、親鸞聖人帰洛之砌、関東門葉為化益、成然上人を関東ニ被残ゟ、尤親類ニ付形見ニ自作木像付属ニ而、寺号妙安寺と賜上洛有之ゟ、其跡ニ而聖徳太子依夢想件之旧基を補ヒ、天福元年妙安寺を草剣シ、最頂院妙安寺と号し、開山木像安置仕、十五代荷徳院成空大僧都迄三村ニ住居仕ゟ、然所酒井古河内守殿武蔵国河越ニ御座ゟ刻、御招待ニ付天正十八年御城下江罷越、其後慶長六年上野国前橋江所替ニ付、又御招待ニ而引移、拙僧迄五代居住仕ゟ、開山聖人自作木像ハ、前橋江移シ安置仕ゟ

一東照権現様江酒井古河内守殿御取持ニ而、荷徳院成空　御目見へ仕、御尊筆并御所持之品拝領仕ゟ

一慶長年中　東照権現様、東本願寺御取立ニ付、拙僧寺安置開山聖人自作木像、本山へ可差進旨拙寺江　上意御紋付御幕等拝領、御紋永々被下置ゟ、右　上意之趣御老中本多佐渡守殿御奉書を以被仰下ゟ、為上使本多藤左衛門殿被成下ゟ、依之右本像本山江差上ゟ、則本山影堂本尊是也

一慶長年中　権現様拙寺宝物御上覧被遊、宝物数品之匣、御紋付七條袈裟御寄附成被下、御教物頂戴仕ゟ

一三村旧地者妙安寺領と号シ、往古ゟ御除地ニ御座ゟ処、十六代目最頂院成賢、右之由緒を以奉願上、高拾石并寺中　大猷院様御朱印成被下頂戴仕ゟ

一三村旧地者前橋妙安寺懸所ニ仕差置申ゟ、則写シ差上ゟ通、本山ゟ妙安寺懸所妙安寺と、絵像裏書并免状ニ茂御座ゟ、則拙僧三村妙安寺住持相兼申ゟ、尤前橋ニ住居仕ゟ義故、荷徳院弟子徳念と申僧、留主居ニ差置申ゟ、徳念死去仕ゟ間、順西と申者留主居ニ申付ゟ、寛永年中本寺へ相願、寺号願正寺と免許、寺中ニ仕留主居為勤申ゟ、順西実子了念留主居申付、只今之願正寺ニ而御座ゟ、則徳念證文写差上申ゟ、右之趣御尋ニ付申上ゟ通、少茂相違無御座ゟ、若偽申上ゟハハ、如何様之越度ニ茂可被仰付ゟ、為其如斯御座ゟ、以上

東本願寺末寺
寅
貞享三年
八月廿五日

上野国前橋
妙安寺

一此口上書江掛所之　祖師聖人番形御影御裏、　太子七高祖御影御裏、　蓮如上人御影御裏、　御絵伝四幅御裏、須弥檀、御免書、御厨子御免書、徳念留主居ニ申付ゟ、證文右之分写被差出ゟ由也

一右之趣早速尋在之、御奉行所様子宜ゟ所、自備後守殿御奉行所へ内々頼有之ゟと見へ、急ニ様子悪敷成、願正寺も出府、妄語謀計相認、備後守殿取持ニ而御奉行所へ　御朱印頂戴仕度旨、願書差出ゟ

一前橋ニ居住ニ而三村妙安寺と申上ゟ段不調法之旨呵有之ゟニ付、申訳又尋之義茂有之、左之口上書被差出、浅草御坊も尋在之ゟ所、粟津入真

大進法眼 噫慶 後二、智蔵 右両人越後荒井願生寺一件ニ付在府中、当寺事ニ付段々口上書被差出ゟ、写当寺へ被差越ゟ 大進此時分ハ法橋、後ニ法眼昇進

（付箋）粟津入真者 右近尉元隅後坊官大進法眼と言、噫慶ハ堂僧一老ニ而講師也、自威儀裏頭 御免也、発向之人洛陽円徳寺、先々住持ニ而洛陽長覚寺を兼住之由也

口上之覚

一拙僧去々年 御朱印之写指上ゟ節、前橋ニ罷有ながら三村妙安寺と計申上、前橋居住之段御改不申上ゟ事不調法之旨被仰聞ゟ、尤奉存ゟ、両寺住職仕ゟ故、不及申上と存ゟ段誤至極仕ゟ

一妙安寺川越江引越ゟ節、木像絵像其外宝物不残持参仕ゟ、尤本尊弥陀如来木像并聖徳太子自作之木像、右三村ニ相残シ安置仕ゟ、其後親鸞聖人絵像、親鸞聖人絵伝四幅、右之分本山へ十五代成空、十六代成賢両代ニ相願、三村懸所江安置免許ニ而、則銘裏書御門跡染筆ニ而御座ゟ、蓮如上人絵像ハ、前橋拙寺へ本寺ゟ免許ニ而御座ゟ、懸所之義政三村へ指遣し安置仕ゟ、此外三村付来ゟ宝物無御座ゟ

一三村妙安寺領年貢、前橋妙安寺へ相納ゟ、門徒ゟ之収納者願正寺ニ為納ゟ、寺破損修覆ハ願正寺ニ為仕ゟ

一寺役之儀、妙安寺ニ而為相勤ゟ儀無御座ゟ、留主居役僧願正寺ニ而為勤ゟ

右之趣御尋ニ付申上ゟ、少茂相違無御座ゟ、若いつわり申上ゟハ、如何様之越度ニも可被仰付ゟ、為其如此御座ゟ、以上

東本願寺末寺
上野国前橋
妙安寺

貞享三年
寅九月六日
御奉行所

口上之覚

一下総国猿嶋郡三村願正寺領之 御朱印御光所妙安寺と有之ゟ、右之御朱印、上野国前橋妙安寺方ニ納置ゟニ付而、今度願正寺頂戴仕度之旨、口上書差出しゟ、依之前橋妙安寺と三村願正寺之筋目御尋被成ゟ、妙安寺儀者元来猿嶋郡三村ニ而致開基、古跡ニ而御座ゟ、其後酒井河内守殿御先祖招持ニ付、前橋江引越致居住ゟ、然共三村妙安寺と今以於本願寺申来ゟ、願正寺ハ前橋妙安寺旧地三村妙安寺留主居坊主ニ而御座ゟ、仍而願正寺義ハ、私共**聢**と覚不申ゟ

一大猷院様御朱印前橋妙安寺四代以前住持、最頂院成賢願上ゟニ付、被聞召上 御朱印成被下頂戴仕ゟ、右之趣ニ御座ゟ間、如前々妙安寺へ頂戴被 仰付様ニ仕度ゟ

一前橋妙安寺、去々年 御朱印写差上ゟ節、前橋乍罷有三村妙安寺と申上、前橋住居仕ゟ段断不申上不調法、殊更其時分輪番勝福寺も委細不申上ゟ段、不念之由被仰聞、御尤至極奉存ゟ、以上

粟津入真
噫 慶

九月六日

一於御奉行所、入真噫慶へ御本山僧官之次第、三村妙安寺開基血脈之様子并願正寺義尋在之ゟ由也、且又当寺川越前橋と引越ゟ様子、当寺書上ゟと願正寺申分相違有之ゟ、願正寺妄語之趣者、三村妙安寺者往古多賀谷修理太夫下総国諸寺院焼払、仏像を打砕ゟニ付、妙安寺茂被焼払住居難成ニ付、開山上人木像を守護ニ而川越へ逃、夫ゟ前橋へ引越ゟ、其跡ニ而拙僧先祖徳念再興仕願正寺と申ゟ、三村妙安寺と申ハ無御座ゟ段願正寺申上ゟ由也、仍而尋在之ゟ口上書左之通被差出ゟ

口上之覚

一本願寺ニ而許申僧官之次第、 院家 前橋妙安寺 内陣一家 餘間一家 飛檐 三村妙安寺 平僧

一下総国猿嶋郡三村妙安寺由緒ハ、親鸞聖人真弟関東廿四輩之内第十六番目成然坊開基ニ而御座ゟ、成然坊血脈者妙安寺成実迄相続ゟ、願正寺儀様子、於本寺不及承事御座ゟ

一三村妙安寺、川越前橋と引越ゟ時之様子、双方申分相違御座ゟニ付、御尋之趣承知仕ゟ、於本寺者妙安寺申上ゟ通、旧記ニ相見へ申ゟ、以

上　　九月七日　　粟津入真　噫　慶

一粟津入真噫慶被申聞ゟ者、備後守殿ゟ手入有之と見へ、御奉行所詮儀之趣、願正寺贔屓之様子ニゟ、国所寺号相違ニ付、　御朱印可被召上様子ニ茂見へ申ゟ、御見聞之通ニゟ間、何程貴寺御出情ニしても思召之通ニ相成間敷様ニ存ゟ、其上備後守殿ゟ願正寺願之趣尤之様ニ相聞ゟ宜御心添被下ゟ様ニ御坊へ使者参ゟ、御存知之通、荒井願正寺一件ニ付、備後守殿江　御本山ゟ順々御頼之節有之ゟ処、殊之外被取持ゟ間手荒キ返事も難被成ゟ、尤貴寺正統之趣者、御奉行所へ私共存ゟ分、随分書出しゟ得共、御奉行所ニ而も備後守殿江遠慮と見へ兎角願正寺尤之様ニ計被申ゟ、此様子ニ而者中々貴寺へ御朱印相渡間敷様ニ存ゟ間、私共存ゟ者、国所寺号相違ニ付、万一双方へ　御朱印御渡シ難被成ゟて、可被召上様子ニ成ゟハヽ、　御本山江御頂戴寺領ハヽ、自今願正寺へ為収ゟ而、前橋妙安寺下三村願正寺と相定申度ゟ、左ゟ得者本末之規式相守、前条有間敷ゟ段御奉行へ口上書差出しゟハヽ、可相済と存ゟ尤　御朱印御本山へ御頂戴被成置ゟへる、貴寺へ御預ケゟ様ニ可取計ゟ、其上重而　御朱印頂戴之砌、前広之通前橋妙安寺へ為致頂戴度、順自　御本山御願ゟハヽ、可相済ゟ、兎角今度其時節悪敷、備後守殿へ対シ被成苦ゟ旨被申聞ゟ間、成実院主尤之儀　御本山江障ゟ而ハ、不冥加ニ被存、右之趣承知有之ゟ付、左之口上書被差出ゟ

口上之覚

一下総国猿嶋郡三村妙安寺、願正寺、国所寺号相違ニ付、万一双方江　御朱印御渡難被成ゟ而、可被　召上様子ニ罷成ゟハヽ、本願寺江頂戴仕寺領者、自今願正寺江為収ゟ而、前橋妙安寺三村願正寺と相定申度ゟ、左ゟ得者本末寺之規式相守可申ゟ間、別条御座有間敷ゟ、三村妙安寺敷地寺領等永絶可申儀、本願寺ニも残念可被存ゟ、以上

九月十六日　　粟津入真　噫　慶

一右之口上書被差出ゟ所、　御朱印御光所と寺号相違之義、難相立ニ付此義も難成旨、且又三村妙安寺者前橋妙安掛所ニ無紛段、当寺ゟ被申上ゟ得共、　御朱印御光所ニ無之義故、当寺ゟ被申上ゟ趣、証拠ニ難相立ニ付、願正寺領之　御朱印当寺ニ納置可申義ニ不思召ゟ、然共願正寺方へ其節頂戴被　仰付ゟへハ、御光所と寺号相違ニゟ間、此上御詮義可有之旨、九月廿二日入真噫慶被仰渡ゟ由被申聞ゟ、右両人被申ゟハヽ、私共是迄貴寺正統之段随分書上ゟて、色々以勘弁取計ゟ得共備後守殿願正寺贔屓故、兎角正統相立難く六ケ敷様子ニゟ、ケ様迄書上ゟて不相済儀、此上者不及了簡ゟ間、如此迄取計ゟ得共、不相済ゟ段京都江可致言上ゟ、左ゟハヽ、思召も可有御座ゟ由被申ゟ、殊ニ此上御詮儀之由ニゟ付、中々御一分之證據計ニ而者難立様ニ存ゟ、能々御勘弁可被成ゟ旨被申聞ゟ間、成実院主被申ゟ者、余リ無体之被成方ニ御座ゟへ共、　公議之事不及是非ゟ、当寺前橋江引越ゟ者、酒井河内守殿御先祖招待ニ而御座ゟ義、殊ニ前橋領主ニゟ間、掛所ニ無紛証拠ニ被相立給ゟ様ニ相頼見可申ゟ、夫も難相成様子ニゟハヽ、致上京　御本山へ御歎申上ゟより外無之旨被申ゟ、両人被申ゟハ御尤之義、左ゟハヽ、御奉行所へハ京都江申達、其上可申上ゟ間、暫御延引之御断可申達旨被申ゟ

一酒井河内守殿忠挙後雅楽頭江成実院主兼而是迄之様子被申達置ゟ上、尚又御奉行所江被出ゟ、口上書写被差出ゟ而被相願ゟ趣ハ、古河内守様御招待ニ付引越ゟ、拙寺義殊ニ大昌院様御取持ニ而頂戴仕ゟ　御朱印、只今ケ様ニ相成ゟ義何共歎敷ゟ、三村妙安寺ハ前橋妙安寺懸所ニ無紛段、一分之証拠ニ而者難相立ゟ間、御請合被仰立被下様ニ被相歎ゟ所、高須隼人を以御申聞ゟ者、御存之通時節悪敷ゟ故、備後守殿へ対し御遠慮ニ而『被来苦由、厚思召之段被仰聞ゟ間、不及是非被存ゟ、於酒井家時節

悪敷と申ハ、　厳有院様御代、大昌院殿(忠清)御大老ニ而御発向之処、常憲院様御代ニ成リ、御役　御免ニ而御様子不宜ニ付、備後守殿江手入茂在之ハ由、故右之通也

一酒井家茂右之趣故、成実院主上京　御本山江右之様子共具ニ被申上、御奉行所へ被差出ハ口上書写差上、掛所ニ無紛段一分之証拠ニ而ハ難相立ハ間、　公儀へ急度被仰立被下ハ様ニ御願被申上ハ所、　无得光院様被　仰出ハハ、奉行所へ差出ハ口上書等、少茂相違無之ハ、殊更粟津入真噫慶江示談之上、　御朱印　御本山へ御頂戴、寺領者願正寺江為収可被申之段迄被申立ハ義、入真噫慶より具ニ申上ハ、段々被致方神妙之至、筋目相立ハ義被　思召ハ、然所先達而より被存ハ通、牧野備後守殿江御頼之筋有之ハ間、時節悪敷甚被成苦ハ、　御朱印滞申義茂御難渋ニ被思召ハ間、　御本山之御為を被存、三村掛所を被相離、願正寺儀妙安寺と改号、　御朱印為致頂戴ハ而、　御光代　御朱印願正寺へ被相渡ハ得者、　御本寺江差障筋無之ハ間、此義頼被　思召ハ、尤ケ様被　仰出ハとて少も御如在ニ不被　思召ハ、時節を以御取戻可被下ハ旨、右之趣得心有之ハ様に頼被　思召ハ旨、以粟津勝兵衛被　仰出ハ、御本山ゟ備後守殿へ御頼之筋と在之ハ、越後国荒井願生寺自力を勤小児不成仏抔と相勤ハ付、追院被仰付ハ所、　本山ゟ非義之取計ニ而追院被申付ハ間、御詮義被下ハ様ニと及　公訴、段々六ケ敷相成、粟津入真噫慶江戸被罷下、於奉行所願正寺と決談在之ハ処自力他力之事故、　公儀役人被聞ハ而も御安心之旨、不被存故、合点参らさる様子ニ而、　御本山無理之追院之様ニも被存ハ趣、兎角裁許不相済ハ所、備後守殿甚発向之事故、入真噫慶取入ハ而御頼在之ハニ付甚御取持被申ハ、御裁許者本山を相手ニ致ハ而　公訴仕ハ、御呵ニ而従　公儀追放被　仰付ハ、右之訳故、備後守殿へ対し被成苦ハ也、願正寺ハ余間地ニハ所、寺跡ハ御坊ニ被　仰付、荒井御坊是也、当寺不運成哉、　御本山ハ御差障筋有之、　河内守殿ニハ御遠慮有之、右之通手を被画ハ上ハ、成実院主ニ茂被成方無之、殊更　御本山へ相障申義大切之御事ニハ間、心外残念千万ニハ得共、被　仰聞ハ通御請被申上ハ時節ニ者可有之ハ得共、後代之住持へ対シハ而茂無面目事ニ被存ハ、御暇被申上ハ節、　无得光院様御対顔被成、御気之毒ニ被　思召ハ旨、御直之御意在之、紫福宝紋白五條許領在之ハ、夫ゟ下向直ニ出府、入真噫慶へ委細被申談ハ処、　御本山御為を御大切ニ思召御請被成ハ義、御忠節之御事と被申ハ、左之口上書奉行所へ被差出ハ、右両人ゟ被差出ハ口上書写被差越ハ也

以口上書申上ハ

一下総国猿嶋郡三村妙安寺、拙寺掛所之段先達而ゟ段々申上ハ所、　御朱印御光所ニ無御座儀故、証拠難相立ハニ付、願正寺領之　御朱印拙寺方ニ納置可申義と不被思召ハ、然共今度願正寺方へ頂戴被　仰付ハ得者、　御光所と寺号相違仕ハ間、此上詮儀可被成之旨、本寺役人共へ茂仰渡ハ付、御門跡江申達ハ所、　御朱印滞申儀於本寺難儀ニ被存ハニ付、願正寺儀妙安寺と相改、　御朱印頂戴為仕ハ而、　大猷院様御朱印願正寺へ相渡シハ様、尤改号之上者、別寺之段本寺ゟ被申聞ハ、然処差募御願申上ハ儀、恐多奉存ハ間、自本山被申聞ハ通承知仕ハ、　大猷院様　御朱印願正寺へ相渡シ可申ハ

一先達而書上ハ三村付来ハ木像絵像、則裏書ニ茂妙安寺掛所三村妙安寺と御座ハ、別寺ニ相成ハ上者、右之分拙寺方へ引取申度ハ、此段御届申上ハ、

貞享三年　　東本願寺末寺
寅　　上野国前橋
十一月六日　　妙安寺
御奉行所

口上之覚

一下総国猿嶋郡三村妙安寺、願正寺国所寺号相違ニ付、万一双方江　御

朱印御渡難被成ゟ而、可被　召上様子ニ罷成ゟハヽ、本願寺へ頂戴仕寺領ハ、自今願正寺為収、前橋妙安寺下三村願正寺と相定度旨申上ゟ得共、　御朱印御光所と寺号相違之儀相立ニ付、此儀も難被成段承知仕ゟ

一三村妙安寺者前橋妙安寺懸所ニ無紛段妙安寺申上ゟ得共、　御朱印御光所ニ無御座ゟ儀故、妙安寺申上ゟ趣証拠ニ難相立ニ付、願正寺領之　御朱印、妙安寺方ニ納置可申儀と不被思召ゟ、然共願正寺方へ今度頂戴被　仰付ゟ得共、　御光所と寺号相違仕ゟ間、此上御詮儀可被成段　御朱印滞申儀、於本寺難義ニ被存ゟ、仍而三村願正寺妙安寺と相改、　御朱印頂戴為仕、　大猷院様御朱印願正寺へ相渡ゟ様、尤改号之上者三村妙安寺前寺之段、前橋妙安寺へ為申聞ゟ所得心仕ゟ間　然上者子細無御座ゟ、為其如此御座ゟ、以上

十一月六日　　粟津入真
　　憶　慶

右両人口上書茂先達而ゟ御奉行所へ被差出ゟ、此方へ被差越ゟ
案紙共宛所無之、仍而其通ニ相記ゟ也

一右両通之口上書被差出ゟ故、　公訴之一件相済、木像絵像勝手ニ引取ゟ様ニ被仰付ゟ、夫より成実院主前橋へ帰院也

一三村ゟ逆意方之門徒三人へ、備後守殿より足軽之様成者差添　大猷院様　御朱印請取ニ前橋へ参ゟ間、安置ゟ而　御朱印被相渡ゟ

一三村　五尊引取ニ了覚寺霊超并門徒五人被差遣ゟ所、　本尊木像、祖師聖人御影、　蓮如上人御影、　太子七高祖御影、　御絵像、右相渡ゟ得共、　太子御木像不相渡ゟ故、了覚寺并門徒可請取旨段々申ゟ得共、逆意方之門徒相詰取囲ゟ而、中々不及力由ニ而帰りゟ、前橋寺内門徒一統ニ残念之由、又大勢差遣シ、夫ニ而茂不渡ゟハヽ、御奉行所へ訴へ、急度可請取旨申談ゟへ共、成実院主被存ゟハヽ、了念非道之以働別寺ニ成ゟ而も、久敷可保事とハ不被存ゟ、　殊ニ　太子ハ三村有縁之尊像故、其儘ニ而三村ニ為致安置、可然事共被差上ゟ也

一三村　本尊須弥檀　祖師聖人御厨子ハ、当寺掛所ニ付　御免別寺ニ相成ゟニ付、五尊引取ニ、了覚寺并門徒遣為取崩ゟ、右　御免書者当寺ニ有之ゟ也

一了然逆意を以　御朱印致頂戴ゟ様ニ相成ゟ事、成実院主余リ心外至極ニ被存、当寺ハ成然上人血脈正統之儀、自今成然寺と相改ゟ段、御本山へ被相願、則　御免、寺社御奉行所へも浅草輪番罷出、御断申上ゟ也

一三村門徒之内、前橋付正統方之分者、願正寺致横領、住持ニ罷成義不足ニ存、西派へ致改派ゟ也

一願正寺了念妙安寺と改号之後、備後守殿ゟ　御本山へ被相願ゟ而、御一家ニ御取立ゟ由也、成実院主三村一件之記ニ在之、備後守殿依願御取立者余間之由也、其後旧跡を申立、半礼ニ而内陣昇進之由也、然とも此義不知実説也

一了念実子成実院主之弟子と成、了西と号ス、然所別寺以後了空と相改致継目ゟ由也、今三村妙安寺者右之了空養子、越後国三条御坊地内ゟ参ゟ由也

一三村掛所別寺ニ相成ゟ義、　開基上人以来無之大乱世、右一件成実院主為記被置ゟ通戴之、了念逆意謀計非道之働を以別寺ニ相成ゟ事、仏祖之冥見不恐事、成実院主成和院主予ニ至リ、三代之間本領安堵之義、宜手筋を伺ゟ得共、未到時節心外之義、無油断可取戻事肝要也、仍而此一件者口上書ニ至迄具ニ戴之者也

一成実院主次男七丸、貞享四年卯年四月得度、　光得光院様御勅刀如先規、即内陣　御免、公名宮内卿、法名成和と号ス

一泥洹院様被成　御隠居、東殿被為成、宮内卿得度之御礼申上ゟ節、御対願御直ニ御慰計被下置、白羽二重一巻拝領在之ゟ　木像様御本所之義被思召上ゟ而、格別之御取扱忝御事也

一宮内卿成和、貞享五辰年三月廿七日、素絹継目　御免也

一宝物諸国披露、先年蒙　御免ゟ所、三村一乱ニ付、　御拝覧茂不伺披露茂不被致ゟ所、三村一件茂先相済ゟ間、即往院成実院主、元禄三年御宝物奉守、上洛此節迄者　御影方御裏茂　御影江付有之ゟ所、自今者、御裏別幅ニ致度旨被相伺ゟ、勝手ニ被致ゟ様ニ被　仰出、夫ゟ別幅ニ被為表具ゟ、且御宝物之内、表補廉相成品ハ被相改、諸軸諸巻修補結構ニ相成ゟ也

一御宝物　御拝覧之義被相伺ゟ所、近日之内　近衛関白様　御本山江御成在之ゟ、兼而　御開山様御真筆之書画、御拝覧被成度旨御懇望ニゟ間、幸之義ニ被　思召ゟ、　近衛様江御内意被　仰進、御成之日　御拝覧可被成旨被　仰出、成実院主ニ茂別而難有被存ゟ、則　近衛様御成之日　御拝覧、御宝物長持　御影堂御門ゟ集会所正面之御門江入、於小寝殿奉荘、即往院々主道服五條ニ而小寝殿中之間へ相詰被居ゟ、近衛様応円満院関白基凞公　本門様一如上人　隠門様常如上人三御所御拝覧御方ゟ御拝覧之節ハ、成実院主鷺之間へ被扣居ゟ、役僧侍共ハ寝殿裏之間ニ差扣居ゟ、役僧侍共迄支度被下置ゟ、両門様ゟ御教物鳥目被成御備ゟ也

一近衛応円満院様、御喜悦被為成ゟ旨、以御使者　後西院帝御宸翰、浄土三郎経紺紙金泥七軸被為成、御寄附ゟ也

一東泰院様御拝覧後、　御添書御染筆被成下ゟ間、此度御拝覧後、当寺縁起専称院成誓著述之ニ巻、外題を内題之通妙安寺縁起と旧寺号被遊下ゟ様ニ被願上ゟ所、　光得光院様御染筆を以、一谷山妙安寺縁起上下と、二巻外題被成下ゟ也

一右御拝覧後、五六ケ国披露ニ而、夫ゟ帰院在之ゟ由也

一元禄七戌年、成実院主隠居、閏五月廿五日即往院と　御免、夫より成和院主住職也

一当時往昔安置之御絵伝ハ　覚如上人御裏画工土佐家也、慶安年中炎上之拠、専称院々主女常讃院妙源往主之節、遣金在之ゟ、此金子ニ而御絵伝御成替御願被下ゟ様ニと、即往院々主へ遣言也、仍而隠居後ニゟへ共、願主成実寄進妙源と元禄十年　一如上人江被願ゟ所、願之通御絵伝御成替　御免御裏御染筆被成下ゟ也

一成然上人自画御影古ク相成、面貌も相分兼ゟニ付、写肖像　一如上人へ成和院主被願上ゟ所被成　御免、銘成就上人御裏成然上人肖像釈一如、御朱印願主実和と被成下ゟ、兼而成和院主之代被願ゟ、　御影之御裏願主者皆実和と被遊ゟ、是ハ実名を書上ゟ故也

一三村掛所了念逆心ニ而別寺ニ相成ゟ義、即往院々主余心外ニ被存、当時者成然上人血脈正統ニ付改号被相願、成然寺と被名乗ゟ得共、成和院主被存ゟハ、即往院々主之心底一理有之、尤ニハゟへ共、成然寺と申ハ新寺号之義、妙安寺ハ　祖師聖人より被下、四百年来歴代名乗ゟ義当院宝物并世間流布之諸記録ニも妙安寺と在之ゟ義、旧寺号ニ相成ゟ度旨、即往院々主江示談在之ゟ所、尤之義可然旨ニ而、　真如上人御代粟津勝兵衛憶慶を以、成和院主連々被願置ゟ、其後即往院々主、報恩寺琢宗院家室、遠慶院を同道ニ而上京在之ゟ間、弥旧寺号ニ改度段、御願被成ゟ様ニと成和院主被申ゟニ付、即往院院主被願上ゟ所、願之通　御免可被成ゟ得共、御領主へ被申達、其上へ(ママ)ニ而可被成御免由御内意被　仰出ゟニ付、酒井雅楽頭殿江右之段申達ゟ所御領掌ニ而、其段粟津右近、粟津勝兵衛、藤井相馬、若林蔵人江、雅楽頭殿寺社役人下田七郎兵衛、針谷新五左衛門より書状を以被申達ゟ、成和院主ニも上洛在之ゟ所、宝永七寅年六月廿八日、如先規妙安寺と改　御免也、其節之口上書州案、粟津勝兵衛憶慶、雅楽頭殿国家老筆頭高須隼人、江戸家家老加判貴志十兵衛書状ニ而委細在之、即往院々主再還旧寺号賀覆之詩一篇被奉　真如上人ゟ所、　御喜色之旨被仰出ゟ也

其詩ニ曰ク

恭承テ　厳命ヲ賀復ルコトヲ旧寺号ニ

一變以来送ル数年ヲ　常ニ願フ再ヒ還ルコトヲ旧院号ニ
ニ一　ニ一
令厳時至テ妙安寺　仰瞻ル思海徳山ノ高キコトヲ
即往院釋成実拝上
時宝永七庚寅歳六月廿八日也

一宝永八年　大祖聖人四百五拾回御忌御法事ニ付、即往院々主成和院主上洛、此砌成和院主嫡子連丸得度願ニ同道、当院ハ往古ゟ即内陣ニ而翌年素絹継目　御免之先例也、然所即座素絹　御免被成下ゟ様ニ、松尾左近取持ニ而相願ゟ所、　大法事前御取込之中、重キ義急ニ者　御聞済難被遊旨ニ而、得度後五日目宛ニ而、内陣素絹継目御免可被成ゟ、此義得心ニゟハヽ、早速御許容可有之旨、松尾左近を以御内意被　仰出ゟ間、其旨御受被申上ゟニ付、三月八日得度、　真如上人御刺刀、公名宰相、法名成恵、同十二日内陣継目　御免、同十六日素絹継目　御免也、即内陣之所余間立ニ相成ゟハ残念成事ニゟ、併夫を押而願ゟへハ、　大法事前不相済由、左近ニも被申ゟ、院家ニ而大御法会為勤度ニ付、右之通ニ而御受被申上ゟ由也

一荷徳院々主、専称院々主、即往院々主、右三幅似影　真如上人江成和院主被願上ゟ所、則　御免銘　御染筆被成下ゟ、尤最領院々主還相院々主似影鼠地紋法服ニゟ間、其通ニ　御免被成下ゟ様ニ被願ゟへ共不相済也、　御裏之義茂先規之通被相願ゟ得共、近年被為成御病身ニゟニ付、追而可被成下旨被　仰出、右之訳粟津右近より之書状ニ有之ゟ冥加之御礼金三百疋差上ゟ也

一当寺者往古ゟ住職并家内　須弥檀収骨　御免之古格也

当院古記録慶安三年三月三日、当山災上之節悉焼失也、其後最領院成賢院主書記之一冊尓、今雖為伝来荒増之記故不被戴事多、還相院成了院主以来ハ筆記無之、尤専称院成誓院主当山縁起著述ニ付、往昔ゟ之来由ハ具ニ被記ゟ、荷徳院成空大僧都以来之由緒共、即往院成実院主、唯能院成和院主、予幼年之比より物語在之ゟ義、往古ゟ之　御印書御免書并書翰等引合委録之、訖縁起系図、最領院々主筆録等引合可有披誦、当院由来具ニ相知ゟ、伝説ニ而記ゟ事在之故、年月不知義多、又不次第茂可有之間、考可見成賢院主筆録之跡を継後代之跡を継、後代之形見尓記之者也

干時延享三丙寅歳晩冬八日書終
（花押）
妙安寺廿一世院室成恵

筆記　院室成恵
享保十七壬子年　回

一无得光院様三十三回御忌御法会、玄如様御得度在之、右ニ付宰相成恵院家上京

一二月十九日成和院家願之通隠居　御免、成恵住職被　仰付、於集会装束間月番藤林長衛、上田職部被申渡

一同廿一日住職之御礼相勤

一同廿二成和願之通、院号唯能院と御免、右束装之間ニおいて、　藤林長門、上田職部被申渡、右　真如様御代也

延享四丁卯年

一関東　御代替ニ付、誓詞被　仰付、成恵上京連丸得度願同道ニ而上京、八月朔日京着

一八月三日上京之届集会所江出、役僧徳円寺正林寺誓詞并年頭御礼之義申上置、出仕者勝手と被　仰出

一同月七日得度、継目先格之通被仰付ゟ様ニ願上

一同月八日誓詞相済

一同月十日年頭之御礼相勤

一同月十三日願之通得度、継目之儀被　仰付、児之御礼十四日得度、十

五日　御免、於集会装束間月番下間大蔵卿、坪坂主馬被申渡尤先格得度後五日宛ニ而
内陣素絹継目　御免也
一同月十四日児之御礼相勤
一同月十五日得度相済、同日得度御礼相勤公名宰相法名成応
一同月十九日内陣継目　御免、於装束間月番下間大蔵卿、坪坂主馬被申渡集会所役人徳円寺交代ニ而、重寺被仰付
一同月廿日内陣継目御礼相勤
一同月廿三日巳刻　素絹継目被　仰付、於装束間月番下間大蔵卿坪坂主馬被申渡
一同月廿五日素絹　御免之御礼相勤
一同月廿六日成恵金入輪袈裟拝領仕度旨、内々ニ而半切之口上書ニ而相認、下間大蔵卿宅迄差出
一同月廿八日、於白書院格別之由緒有之ニ付、以思召金入輪袈裟拝領被仰付、勝手ニ着用可仕由、下間大蔵卿坪坂主馬被申渡
一九月十二日御□申上、於白書院飼田大膳を以　御□被下、右　従如様　御代也
一此節之定衆御鎰役称名寺智乗院
一下間大蔵卿先祖按察使法印以来数代別懇ニ付、始中終殊之外取持、小奏者森村宗栄内外殊之外取持也
一帰国之砌父子共ニ江戸へ出、領主　酒井雅楽頭殿江参上、窺機嫌并宰相儀自本山院家先格之通被免ゐ段相届ケ、雅楽頭殿対顔妙安寺ニ懇之御意并院家之悦被仰ゐ、奏者江戸年寄大田伴兵衛嫡子　大田又左衛門也、妙安寺父子ニ御茶菓子被下、国家老　内藤半左衛門挨拶ニ被出ゐ、武頭元占役　松崎仁兵衛武頭奏者役　大田楽太夫殊之外取持被申ゐ、尤大田氏松崎氏当　院之門徒也、右　雅楽頭殿対顔十月四日也

# 三、昭和五十五年度埋蔵文化財発掘調査概報

## 1　芳賀東部団地遺跡

一、所在地　前橋市五代町字鍛治皆戸六五九番以下　九六筆
二、調査年月日　昭和五十五年四月二十一日～昭和五十六年三月三十一日（発掘は昭和五十五年十一月十四日で終了）
三、発掘調査の概要
本年度は発掘調査五ヶ年計画の最終年度にあたり、調査面積は約一〇・六*ha*に及んだ。調査の結果、縄文・古墳・奈良・平安の各時代、および中、近世の遺構・遺物を多数検出した。
(一)　遺構・遺物について
イ　遺構数　六四四遺構（含時期不明ピット三六）
縄文時代　竪穴住居跡八、ピット（穴）十三
古墳時代　古墳四、竪穴住居跡七五、ピット四、掘立柱建物跡一
奈良・平安時代　竪穴住居跡一四九、掘立柱建物跡七六、溝三一、溝状跡二、ピット五〇、製鉄跡二
中・近世　井戸八、ピット一八五
ロ　遺物量　パン箱二七〇
縄文時代　土器、石器　パン箱十三
古墳時代　土師器（甕・坏・坩・甑）、勾玉、管玉、耳環、鉄製直刀、鉄鏃、刀子　パン箱八〇
奈良・平安時代　土師器（甕・坏・羽釜）、須恵器（甕、坏蓋、平瓶）、羽口、紡錘車、砥石、鉄製鎌、刀子、丸鞆、パン箱一七二
中・近世　五輪塔火輪部（凝灰岩製）陶器破片　パン箱五

(二) 遺構・遺物の概要

イ 繩文時代　前期末に属すると考えられる石囲い炉をもつ住居跡が四軒、うち一軒は埋め甕のある石囲い炉（炉の床は石皿使用）であった。炉がなく埋め甕のみの住居跡も一戸検出した。

ロ 古墳時代　この時期の遺構は、台地の南に集中する傾向がみられ、古墳周辺に竪穴住居跡が多く発見された。この事実から当時の土地利用のありかたを窺うことができる。

幅一八五㎝、長さ三三五㎝の両袖型石室をもつ一号墳は、七世紀後半の築造と考えられる円墳（墳丘の直径約二〇m）であった。なお、石室内からは鉄製直刀二振、鉄鏃十一本、刀子一本がみつかっている。二号墳も両袖型石室を有す七世紀後半築造と推定される円墳が確認された。他二基はいずれも円墳だが、周堀の確認のみで築造年代等については不明であった。

遺物としては、住居跡から製作途中の勾玉や管玉が、また火災に遇ったと思われる住居跡からは坏や甕がセットをなして発見され、当時の日常生活の様子をほうふつさせるものがある。

ハ 奈良・平安時代　今回、竪穴住居跡の調査では、約二mの石組みの煙道をもつ竈、壁に張出部や棚状施設のある住居跡が検出され、住居の構造の変遷を知る手がかりが得られた。さらに、直径五〇m程の広場を囲むように住居跡が発見されている。

掘立柱建物跡は、二間×二間、二間×三間の規模が大部分を占めているが、遺物や竪穴住居跡との切合いが少なく時期の推定に苦慮している。建物跡は東―西、北―南に列をなす傾向が窺えた。

広場を囲む住居跡や列をなす掘立柱建物跡、東西南北に規則正しく走る溝からは、集落のありかたや建物の造営について何らかの企画性が感じられる。

遺物について顕著なことは、使い込んだ砥石が多くみつかっていることである。当時の鉄器の普及状況を如実に示すものといえる。さらに墨書土器についても判読できるものとして「莫」「神木」「井……」等が発見された。

ニ 中・近世　溝八号から凝灰岩製五輪塔（火輪部）が出土している。また、直径一m内外の浅い円形のピットが数多く検出されているが、その性格等について現時点では不明である。

## 2 西大室遺跡群Ⅱ（土地改良事業に伴う事前発掘調査）

一、所在地　前橋市西大室町字北山・吉原地内（第二次）Ⅰ区
　　前橋市西大室町字上繩引・下諏訪地内（第三次）Ⅱ区

二、調査年月日　昭和五十五年五月十七日～七月十日（第二次）
　　昭和五十五年十月六日～十二月二十日（第三次）

三、発掘調査の概要

前橋市西大室土地改良事業に伴う第二年次の事前発掘調査である。工事施行の都合上、第二・三次に分けて調査を行い約三・三haを発掘した。その結果、繩文時代から近世に及ぶ遺構六九を検出し、記録化することができた。

(一) 遺構・遺物の数量

イ 遺構数

繩文時代　竪穴住居跡四　ピット一
弥生時代　周溝墓十二
古墳時代　古墳九　埴輪棺二
奈良・平安時代　竪穴住居跡十三　掘立柱建物跡三　ピット一
中　世　地下式土壙二　井戸一　溝二
近　世　墓十六　溝六

ロ　遺物量

縄文時代前期の土器・石器、弥生時代晩期の土器、埴輪（円筒・朝顔）、奈良～平安時代の土器等を主体として、プラスチック製コンテナバット六十箱分相当。

(ニ)　遺構・遺物の概要

イ　縄文式土器を伴う遺構　Ⅰ・Ⅱ区のものとも前期（関山・諸磯式）の住居跡であり、一号住居跡からは滑石製の玉が出土している。ピットについては、明確な伴出遺物が無いために時期は不明である。Ⅱ区においては、住居の存在を思わせる遺物の散布が認められたが、開墾・耕作による破壊で、遺構の確認はできなかった。他に、石囲いの炉跡のみを確認したものが二基ある。

ロ　弥生式土器を伴う遺構　Ⅱ区において、九基の円形周溝墓と三基の方形周溝墓を検出した。その内、五基の溝中には浅間山降下のC軽石層の堆積が認められ、二基はC軽石層の上に築造されていた。伴出土器は、赤井戸式・樽式が主であり、古式土師器を若干含むものもあるので、時期相・地域相を探る上での貴重な資料が得られたことになる。また、全体が五グループに分れ、その築造順序もほぼ辿れる。

ハ　古墳と埴輪を伴う遺構　径一〇～一六㍍の円墳九基を検出した。埋葬主体部を確認できたものは四基で、他は全て削平されていた。一・三・九号墳は横穴式両袖型石室を有し、九号墳は胴張りを持つことが確認された。七号墳はF.Aの直前の古墳であり、約一・六㍍の箱式棺状の埋葬主体部を有する。埴輪は、四・八号墳、埴輪棺に使用されていたが、口唇部に小動物を貼り付けた円筒や素文の円筒等があり注目される。営造年代は六世紀～七世紀前半である。

ニ　土師器・須恵器を伴う遺構　Ⅰ区において鬼高期を中心として十二戸、Ⅱ区では国分期の竪穴住居跡一戸を検出した。掘立柱建物跡三棟はほぼ南北に並んでいたが全容は不明である。

ホ　中・近世の遺構　箱薬研掘りの溝で区切られた、居館址を思わせるような広場と井戸。素掘りの墓壙十三、木棺(?)を伴う墓一、石囲いを持つ墓一。内部で火を燃やした痕跡のある地下式土壙二等バラエティーに富んだ遺構を検出することができた。伴出遺物が不明確なものが多いために厳密な時期決定はなし得ない。

以上、西大室地区の変遷を知り、前橋の歴史をうかがうための貴重な資料が多数得られたことを報告しておくこととする。

## 3　富田遺跡群Ⅱ（土地改良事業に伴う事前発掘調査）

一、所　在　地　前橋市富田町宮下七四四―一番地以下七筆

二、調査年月日　昭和五十五年七月十日～十月四日

三、発掘調査の概要

本年度が第二年次の継続調査である。昨年度調査区の南にあたり、荒砥川右岸の段丘上の桑畑一〇・〇〇〇㎡の調査を行った。

(一)　遺構・遺物の数量

イ　遺構数　九二

弥生時代　竪穴住居跡三
古墳・奈良・平安時代　竪穴住居跡六七　ピット多数
江戸時代　寺跡礎石群二　配石遺構一、堀二、井戸一
その他　溝三、土壙一〇

ロ　遺物量

弥生時代　土器　パン箱三
古墳・奈良・平安時代　土器・鉄製品等　パン箱四六
江戸時代　石造品・貨幣・陶器片　パン箱三

その他　パン箱八

(二) 遺構・遺物の概要

イ　弥生時代　後期に属する竪穴住居跡を三戸確認し完掘した。三戸とも、浅間山のC軽石に覆れていた。これらは円を描くように配置されており、調査区域の西にさらに多くの住居跡が予想される。出土遺物は樽式の甕・壺が主であるが、赤井戸式の土器片も住居内より出土している。

市内の数少ない弥生時代の遺構であり、かつ、C軽石に覆われており、土器編年上一つの基準となる遺構である。

ロ　古墳・奈良・平安時代　土師器を伴う遺構として竪穴住居跡、多数のピット（住居内）が検出された。住居跡は、鬼高期後半から国分期のものであり、南斜面に沿った部分で、真間期から国分期の住居跡の重複が激しかった。竈はほとんどの住居が東壁に付設するが、中には西・南壁に付設するものもあった。竈の造りは石組・白色粘土・ローム・土器の転用等種々であった。出土遺物は、特に鬼高期の住居跡で豊富であり、竈付近を中心に、土師器の甑・長甕・壺・坏等出土しており、生活を知る上で貴重な資料が得られた。又、滑石製子持勾玉・石製紡錘車・羽口（竈の支脚として転用）・砥石等も住居跡から出土した。

ハ　江戸時代　寺の礎石・配石遺構・居館址・井戸が検出された。寺の礎石は、元ここにあった正法院のもので二期に分かれる。配石遺構は、礎石のやや南東にあり、寺との関係が考えられる。調査区中央の南北の堀も寺と関係あると推定される。正法院は二度の火災で焼失と伝えられ、古図面等で位置が推定されていたが、今回の調査により、寺域・規模が確かめられた。居館址は二重の堀をもち、江戸時代の初めに作られたという伝承をもっている。

調査区域南を東西に走るカン（神?）堀は、用水路とも、寺に関係ある堀とも確定しえなかった。

ニ　その他　溝・土壙が検出されているが、土壙は伴出遺物のないものが多く、性格不明である。推定の域を出ないが地下式遺構と考えられるものもある。溝は住居群を切っており、住居より新しいと推定される。又、中世と考えられる五輪塔の残片が多数出土しているが、遺構は伴っていない。

## 4　清里南部遺跡Ⅲ（土地改良事業に伴う事前発掘調査）

一、所　在　地　前橋市青梨子町字下東西一七八番地以下三六筆

二、調査年月日　昭和五十五年五月十三日～十月十一日

三、発掘調査の概要

本遺跡地は、八幡川右岸の台地上（I区・J区）および、左岸の榛名山麓より発する小河川の旧河道と思われる谷（水田）へ向う南向きの緩傾斜地（L区・M区）に位置しており、主に竪穴住居跡を中心とする遺跡である。

(一) 調査面積　約一一、〇〇〇㎡

(二) 遺構・遺物の数量

イ　遺構数

| | |
|---|---|
| 奈良・平安時代 | 竪穴住居跡四五　溝四　ピット三 |
| 中世・近世 | 伝東覚寺跡（通称トウノコシ）　溝二 |
| | ピット二 |

ロ　遺物量

| | |
|---|---|
| 奈良・平安時代 | 土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦・金銅製帯金具・鉄製品等　パン箱四七 |
| 中世・近世 | 陶磁器・五輪塔・宝篋印塔等　パン箱三 |

(三) 遺構・遺物の概要

イ　奈良・平安時代　八幡川右岸で九戸、左岸で三六戸の竪穴住居跡を検出した。

奈良時代の竪穴住居跡は、長軸を東西方向にもつ傾向があり、平安時代にあっては、長軸を南北方向にもつが、正方形に近い平面形をもつものもあり、その規模や形状からいくつかのグループに分けることができる。

また、総数の約三分の二にあたる竪穴住居跡が、相互に何らかの形で重複関係にあり、著しいものは九戸の重複が認められた。この傾向は、傾斜地の南端に近くなるほど顕著であり、居住地選定の上で興味深い。

遺物は、ほとんどが竪穴住居跡から出土しており、溝からの出土は極く少量である。主に、土師器・須恵器のカメ・坏・埦類である。平安時代の竪穴住居では、羽釜及び灰釉陶器を伴出するグループが総数の1/3を占め、最も新しいグループでは灰釉陶器を伴わず、土釜あるいは、カワラケに類する土器を伴出する。また、カマドに平瓦を使用した竪穴住居跡を二戸検出した。土器類の他には、金銅製帯金具（丸鞆）・釘・刀子・紡錘車等の鉄製品砥石等がある。

ロ　中世・近世　総社町高井字池田に「トウノコシ」と通称される五十坪程の荒地があり、総社町の光厳寺境内に現存する「伝東覚寺層塔」（市指定重文）の故地との伝承がある。「トウノコシ」は、一種の禁忌地であり、中世に栄えたと言われる「東覚寺」に関連する何らかの遺構の存在が推定された。調査の結果、固い地山を削平し、周囲を畔状に掘り残した遺構が検出されたが、寺院跡と直接関連づける要素に欠けており、その性格は不明である。遺物には、南北朝期まで遡り得る五輪塔空・風輪および、宝篋印塔の破片が表土中より発見された。

溝はM区西側に検出され、江戸時代の五輪塔空・風輪が出土した。この溝は南の谷へ向うと思われ、灌漑用水の跡と推定される。

ハ　まとめ

本遺跡は、八世紀から十一世紀初頭にかけての比較的新しい時期に属する竪穴住居跡を中心とした遺跡である。特に、瓦を伴出する竪穴住居跡が、先年度に続いて二戸検出されており、本遺跡と程遠くない地点にあった国分寺・国分尼寺・山王廃寺との関連が注目される。いわゆる「トウノコシ」については、「東覚寺」との直接的な関連は認められなかったが、「トウノコシ」の伝承を裏付ける一つの資料を得たと言えよう。

青梨子町の南部に広がる広大な遺跡地の全貌を明らかにするわけには行かなかったが、三次にわたる調査の結果、古代から近世にわたる地域史の一端をうかがう重要な資料となろう。

## 5　鶴谷遺跡群（前橋総合運動公園事業に伴う事前発掘調査）

一、所在地　前橋市荒子町下鶴谷一四六五番地以下五筆　他一六九筆
二、調査年月日　昭和五十五年七月一日～十二月十九日
三、土地所有者　前橋市　管理者　藤井精一
四、発掘調査の概要

前橋都市計画事業による前橋総合運動公園の建設区域二二、三haについて、トレンチ方式による全面試掘調査を行った。その結果、区域南部の微傾斜面に、古墳時代ならびに奈良・平安時代の竪穴住居跡等を確認した。住居跡は群をなして存在し、およそ三地域に分けることができる。本年度は第一年次の調査で公園内テニスコート建設予定地の一部約八、五〇〇$m^2$、および進入道路部分約三、五〇〇$m^2$の合計約一二、〇〇〇$m^2$について全面発掘調査を行った。

(一)　遺構・遺物の数量

イ　遺構数
　縄文時代　ピット一
　古墳・奈良・平安時代　竪穴住居跡三九　ピット三　溝四　井戸二
ロ　遺物量
　古墳・奈良・平安時代　土器・鉄製品・石製品　パン箱二〇
(二)　遺構・遺物の概要
イ　縄文時代　表面採集では、縄文時代前期（約六〇〇〇年前）に属すると思われる土器片が発見されたが、この時期の遺構の検出はなかった。軽石を含まない暗褐色土を埋土とする方形ピット（穴）一が発見されたのみである。このピットからは、出土遺物は確認されなかった。
ロ　古墳・奈良・平安時代　遺跡は、赤城山の南麓にあたり、ほぼ中央を一〇〇mの等高線が東西に走る山麓最末端の微傾斜地にある。遺跡地には浅い谷が入り組み、局地的には複雑な地形を呈する。土師器および須恵器を伴出する竪穴住居跡は、谷への南あるいは東南傾斜地面より検出され、それぞれ群をなしていることが判明した。出土遺物や住居跡の存在形態には差異が認められる。遺跡地北部からは十六戸の住居跡が重複なく検出され、この住居跡群を北より西にかけて取り囲むように浅い溝が検出された。この住居跡群は、奈良、平安時代の集落跡であると思われる。
　遺跡地南部からは、二三戸の住居跡が検出された。そのうち、重複のあるもの一、建て替えられたもの一、火災住居跡一が確認された。これらの住居跡は密集して存在し、来年度発掘予定地である西側に、更に連続して存在することが予測される。時期は主に古墳時代のものと推定される。以上のように、本遺跡は、地形と居住地との問題をはじめ、村落の形態や変遷を知る上で貴重な資料と思われる。出土遺物としては、墨書土器も数点出土している。（「仝」（？）「大」（？）また、土師器、須恵器がその大半で、完形あるいは復元可能なものが多数あり、セット関係および時期等の考察については、今後の課題である。

## 6　中島遺跡（清里方面運動場造成事業に伴う事前発掘調査）

一、所在地　前橋市青梨子町字中島五六〇番地他　字中原九二七―二番地他
二、調査年月日　昭和五十五年十一月一一日～昭和五十六年二月二八日
三、発掘調査の概要
　中島遺跡は、清里小学校南東五〇〇mの八幡川左岸の台地上に所在する。西を八幡川、北を比高二m前後の谷状の低地で区切られ、南東にゆるやかに低くなっている。
　本遺跡の発掘調査は、清里方面運動場造成に先立ち、削平予定地一二、三〇〇㎡に対して実施したものである。その結果、奈良・平安時代の竪穴住居跡を中心に総数一一〇遺構を検出した。
(一)　遺構・遺物の数量
イ　遺構数　一一〇
　古墳時代（？）　溝一
　奈良・平安時代　竪穴住居跡八七　ピット四　溝三
　中世　竪穴状のピット一一　溝一　井戸一
　近世以降　集石遺構一　溝一
ロ　遺物量
　縄文時代　土器・蜂の巣石　若干
　古墳時代　土器　若干
　奈良・平安時代　土器（土師器・須恵器・灰釉陶器）・瓦・鉄製品等　パン箱五〇

中世　　土器　　若干

(二) 遺構・遺物の概要

イ　縄文時代　縄文式土器の小片（中期他）と蜂の巣石が出土した。遺構は確認できなかった。

ロ　古墳時代　石田川式土器とみられる甕の小片が数点出土した。遺構としては、奈良・平安時代の溝に切られる古手の溝（北西から南東に走る）を検出したが、年代については未検討である。水の流れた形跡を持つ唯一の溝である。

ハ　奈良・平安時代　土師器を伴う遺構として竪穴住居跡・溝・ピットを検出した。竪穴住居跡は八七戸のうち六九戸に重複が認められた。年代は伴出の土器および竪穴住居跡の形状等から、八世紀後半から一一世紀前半ごろまでのものとみられる。竪穴住居跡はほとんどのものに柱穴がなく、壁下の周溝や貯蔵穴のないものも認められた。カマドは先端を東壁に接して住居内に造り出しているもの、焚口を東の壁面に合わせて外に造り出しているもの、あるいは住居を造る際に地山を掘り残してカマド袖としているもの等があった。いずれも東壁に設置されていた。カマド焚口の袖石や架構材あるいは内壁に凝灰質砂岩の切石を使用しているものがあり、年代に関係なく普遍的にみられた。

竪穴住居跡の分布をみると、調査区域の南半部に激しい重複がみられ、一〇戸から一五戸前後のものが三群認められた。北半部では最高でも三～四戸の重複で概して少なく、これらが北西の谷状の低地に開いた、径四〇m前後の空間を取り囲むようにして分布していた。また、本遺跡で最も古手の数戸の竪穴住居跡は、南半部の一画にまとまって存在しているが、これが羽釜使用時期になると爆発的に調査区域内全域に広がる。検出した竪穴住居の七〇%以上は羽釜出現期以降のものである。以上のような分布や展開に対して、今後さらに詳細な検討を必要とするが、集落の構造と変遷を知る上で貴重な資料になるものと考えられる。

溝は南半部に東西または南北に走っており、水の流れた形跡は認められなかった。ピットは、巾に対して長さの非常に大きいものと、竪穴住居跡のカマドのない形のものを検出した。後者の中には、床面上一面に焼土と灰の積っているものがあった。以上の竪穴住居跡・溝・ピット等には、埋土中に多量の人頭大の石塊と土器片を含み、意図的な一括廃棄をうかがわせるものがあった。

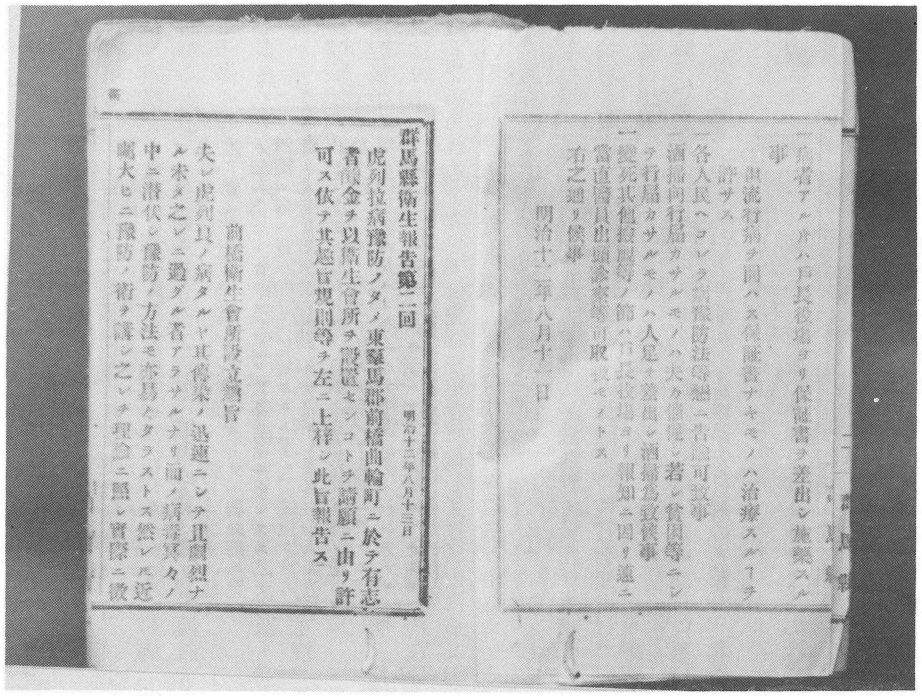
主な遺物には、土師器（坏・埦・甕・羽釜・土釜・カワラケ様の土器・甑状土器等）、須恵器（坏・埦・皿・甕・羽釜・耳皿等）、釉陶器（埦・皿・段皿等）、鎌・釘等の鉄製品・鉄滓・砥石の他、灰鉛釉陶器（二彩・白釉・緑釉）・文字をヘラ書きした埦（『河上』）、瓦（丸瓦・平瓦）・硯（風字硯・円面硯）・古銭（判読不明）等が出土した。

ニ　中世　この時代とみられるものに、甕の破片を出土した竪穴状のピットと、ローリングしたB軽石を埋土の主体とする溝（東西に走る）、そして井戸がある。竪穴状のピットは、井戸と共に一ヶ所に集中しており、竪穴住居跡を切ってつくっている。形状、面積、深さ等は竪穴住居跡からカマドを取り除いたものに似る。性格は不明である。井戸は直径九〇cmの円柱形の素掘りのものである。遺物は前記した甕の破片だけである。

ホ　近世以降　約三m×三mの方形ピット底部の東辺と北辺に石列を組み（現状で一段）、その中に多量の石塊を集石した遺構と、南西から北東に走る巾六〇cm、深さ四〇cm（ともに遺構、検出面で）、断面の形状が箱形の溝がある。性格はいずれも不明である。この時期に相当する遺物はまったくなかった。

## 四、文化財調査関係写真

旧元総社村役場資料



群馬縣衛生報告第二回　明治十二年八月十三日

虎列拉病豫防ノタメ東羣馬郡前橋曲輪町ニ於テ有志者醵金ヲ以衛生會所ヲ設置センコトヲ請願ニ由リ許可ス依テ其趣旨規則等ヲ左ニ上梓シ此旨報告ス

前橋衛生會所設立趣旨

夫レ虎列良ノ病タルヤ其傳染ノ迅速ニシテ且劇烈ナル未タ之レニ過グル者アラサルナリ而ノ病毒冥々ノ中ニ潜伏シ豫防ノ方法モ亦易々タラストス然レ𪜈近嘱大ヒニ豫防ノ術ヲ講シ之レヲ理論ニ照シ實際ニ徴

一病者アルトキハ戸長役場ヨリ保証書ヲ差出シ施藥スル事

但流行病ヲ固ハス保証書ナキモノハ治療スルヿヲ許サス

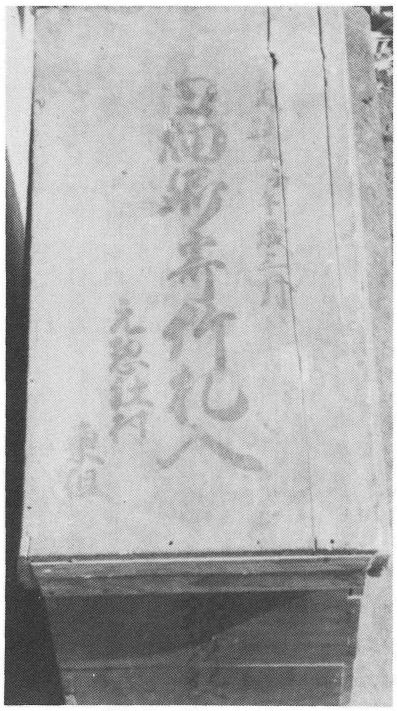
一各人民ヘコレラ病豫防法等懇ニ告諭可致事

一酒掃向行届カサルモノハ夫々催促シ若シ貧困等ニシテ行届カサルモノハ人足ヲ差出シ酒掃為致候事

一變死其他撿視等ノ節ハ戸長役場ヨリ報知ニ因リ速ニ當直醫員出頭診察等可取扱モノトス

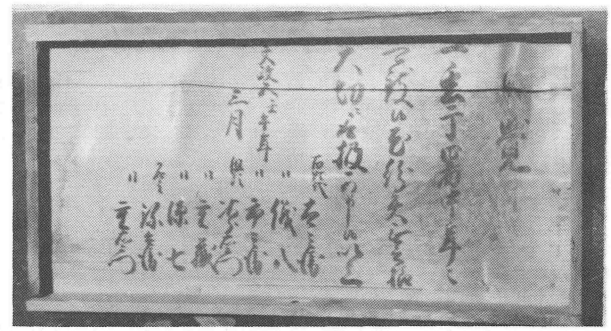
右之通リ候事

明治十二年八月十一日

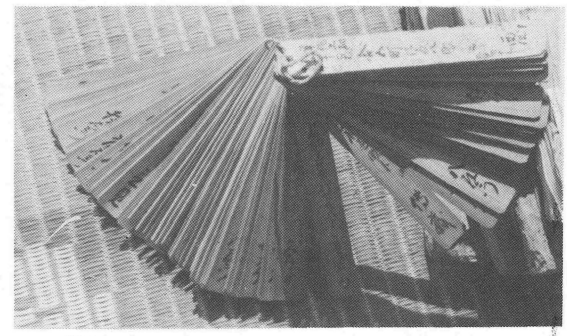


田畑郷寄竹札入

文政五年壬午年三月（表）

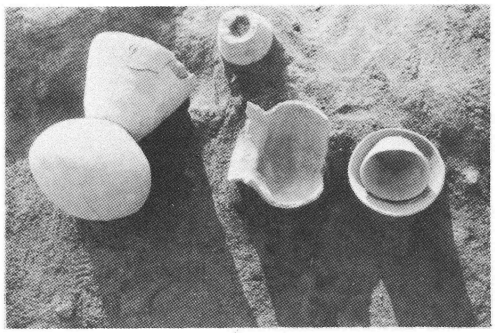


田畑郷寄竹札入　文政五年壬午年三月（裏）



竹札

# 昭和55年度埋蔵文化財発掘調査

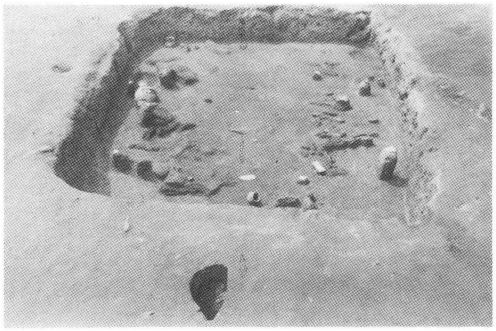


芳賀東部団地遺跡　第5次調査
5H－184号住居跡遺物出土状況

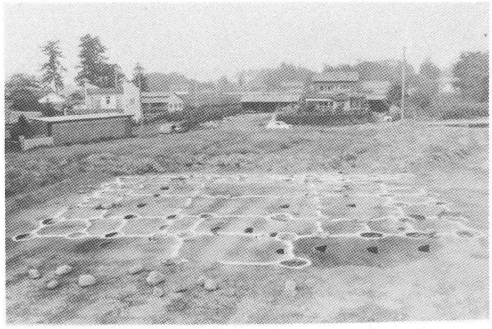
芳賀東部団地遺跡　第5次調査
5M－1　石室

西大室遺跡群　第2年次調査
円塔埴輪棺(古墳の周堀と切りあって出土)

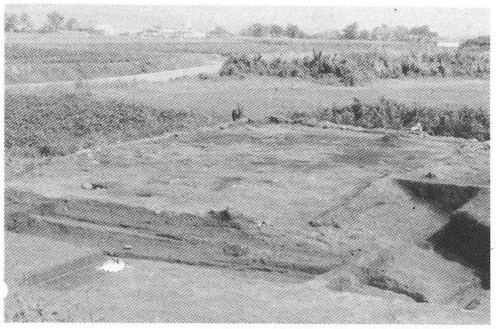
西大室遺跡群　第2年次調査
北西より見た古墳と周溝墓



富田遺跡群　第2次調査
51号住居跡遺物出土状況



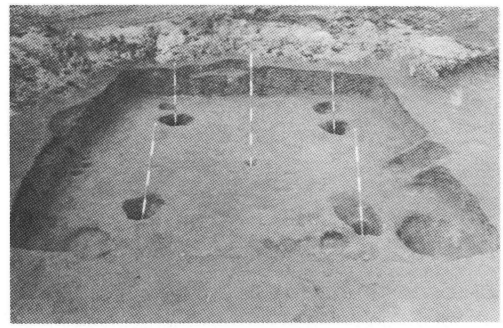
富田遺跡群　第2次調査
寺　跡　全　景



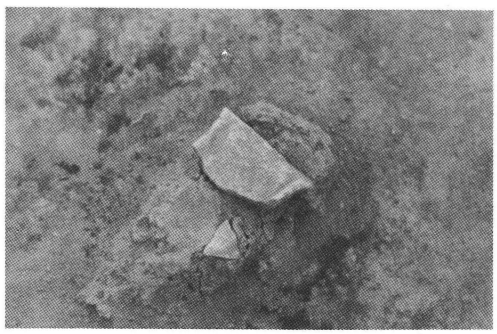
清里南部遺跡群　第３次調査
トウノコシ全景

清里南部遺跡群　第３次調査
ＬＫ　遠景

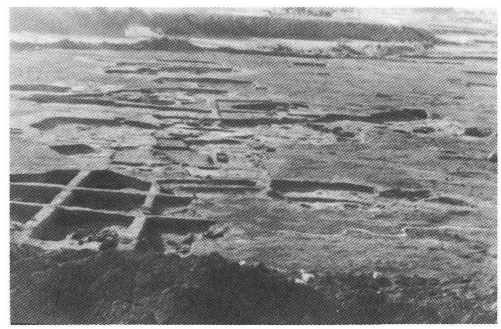
鶴ケ谷遺跡群　第１次調査
発　掘　区　遠　景



鶴ケ谷遺跡群　第１次調査
Ｈ―21号住居跡



中　島　遺　跡　群
21号住居跡　硯出土状況



中　島　遺　跡　群
竪穴住居跡およびピット重複状況

## 前橋市文化財調査委員

（議長）山田武麿
（委員）中沢右吾
丸山知良
松島栄治

## 前橋市教育委員会
## 社会教育課文化財保護係

課長　片貝高四郎　　主事　鵜木晋一
次長　若林健二　　〃　井野誠一
係長　松本浩一　　〃　松村親樹
主任　福田紀雄　　〃　飯塚誠
〃　木部日出雄　　〃　川崎始
〃　福田充裕　　〃　田口正美
主事　池田茂則　　〃　入内島裕美
〃　唐沢保之　　〃　杉浦つや子

嘱託　近藤昭一


昭和55年度
文化財調査報告書　第11集

印刷　昭和56年3月25日
発行　昭和56年3月30日
発行所　前橋市千代田町一丁目8－8
前橋市教育委員会事務局
社会教育課（電話32—6538番）
印刷所　前橋市大手町三丁目6—11
有限会社　原田印刷所
電話31—2665番代